

2022 年度
新型コロナウイルス感染症影響調査業務

実施報告書

2022 年 12 月

公益財団法人 日本交通公社

< 目 次 >

1. 調査の趣旨・目的	01
（1）調査目的	01
（2）調査概要	02
2. コロナ下での富士山登山の動向	03
（1）登山者の推移	03
（2）来訪者管理に係る主な取組 [2022 年度]	04
3. コロナによる影響	05
（1）社会的影響	05
（2）自然的影響	33
4. コロナと来訪者管理戦略	35
（1）来訪者管理戦略の概略	35
（2）指標・水準の設定・評価	36
（3）来訪者管理戦略に係る近年の動向	38
（4）コロナが来訪者管理戦略の「望ましい富士登山の在り方」実現に向けた指標・水準に与えた影響	38
（5）コロナによる影響を踏まえた考察	39
（6）来訪者管理戦略の今後の方針	41
参考資料	43
（1）アンケート調査票（山小屋調査）	44
（2）アンケート調査票（富士登山意識調査）	48
（3）スクリーニング調査結果（富士登山意識調査）	52
（4）クロス集計調査結果（富士登山意識調査）	54
（5）静岡県・山梨県新型コロナ対応基準・ガイドライン	79

1. 調査の趣旨・目的

(1) 調査目的

本調査事業は、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）の感染拡大の影響を強く受けた 2021 年度の富士山開山期における、各登山道の五合目以上の山小屋及び登山ガイド等が受けた経営・営業活動面及びその他対応面での影響を把握することにより、今後の施策に活かすとともに、2020 年度に実施した「富士登山に関する意識調査」がどのように変化したか調査・分析を行うものである。

(2) 調査概要

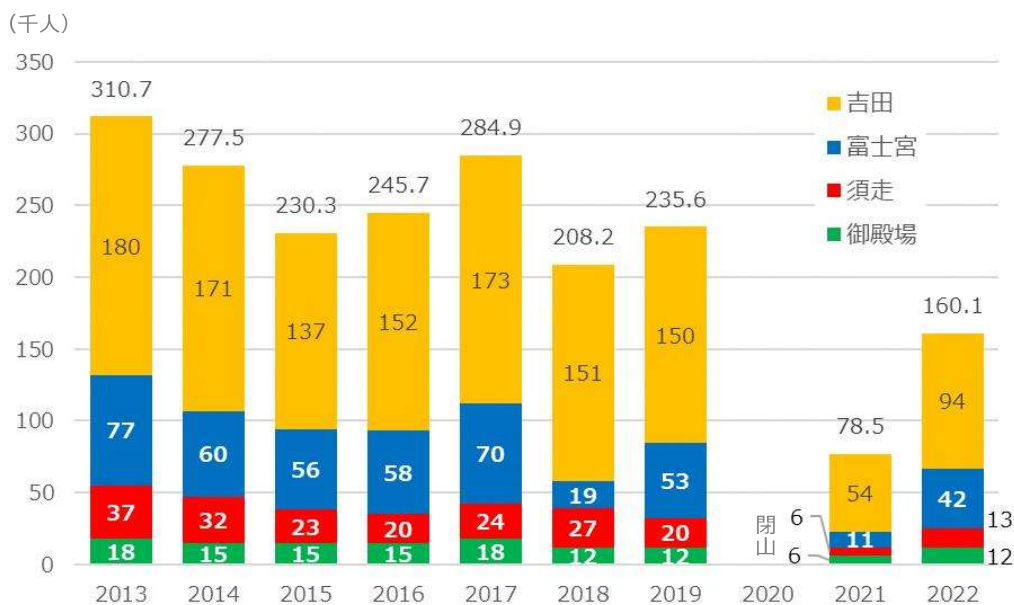
区 分	調査方法	
ア 山小屋調査	調査方法	アンケート（ウェブまたは郵送を回答者が選択）
	調査時期	2022年6～7月（2022年開山期前）
	調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年の登山者（2019年との変化） ・2021年の登山者に対するコロナ対応 ・2021年の経営面におけるコロナ対応 ・今後の方向性
	調査対象	富士山五合目以上の山小屋40軒 回収数：31軒（回収率77.5%）
	調査方法	ヒアリング
	調査時期	2022年6～7月（2022年開山期前）
	調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・上記アンケートの補完 ・コロナ前後の富士山の自然環境面の変化
	調査対象	富士山五合目以上の山小屋の組合・団体及び一部山小屋 対象者：9名
イ 登山ガイド調査	調査方法	ヒアリング
	調査時期	2022年6～7月（2022年開山期前）
	調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年の登山者（2019年との変化） ・2021年の登山者に対するコロナ対応 ・2021年の経営面におけるコロナ対応 ・今後の方向性 ・コロナ前後の富士山の自然環境面の変化
	調査対象	富士山各登山道でガイドを行う事業者の組合・団体及び一部事業者 対象者：8名
ウ 富士登山意識調査	調査方法	ウェブアンケート（楽天インサイトモニターを利用）
	調査時期	2022年8月
	調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・今夏の富士登山意向・希望する登山形態 ・今後の対策に対する考え 等
	調査対象	富士登山に興味のある成人 回収数：1,000人 ※スクリーニング回答：4,597人

2. コロナ下での富士登山の動向

(1) 登山者の推移

- 富士山の登山者数については、年によって増減があるものの概ね 20～30 万人前後で推移してきたが、コロナの影響を受けて 2020 年は開山せず、2021 年についても緊急事態宣言や各山小屋の収容人員の抑制等が重なった影響を受けて登山者数は大幅に落ち込んだ。
- 2022 年は 16 万人まで登山者数は回復したが、コロナ前の水準には至っていない状況である。

※ ただし、2021 年・2022 年いずれもデータの欠測期間がある点に留意する必要がある。



計測期間の差異や欠測があるため、比較の際は留意が必要 (下記※1～7参照)

※1 : 2013 年 7/1～8/31

2014～2015 年 7/1～9/14(吉田ルート)、7/10～9/10(須走ルート、御殿場ルート、富士宮ルート)

2016～2022 年 7/1～9/10(吉田ルート)、7/10～9/10(須走ルート、御殿場ルート、富士宮ルート)

※2 : 2014 年は雪のため、御殿場ルートでは 7/10 に六合目まで開通、富士宮ルートでは 7/10 に八合目まで開通 (いずれも全線開通は 7/18)

※3 : 2018 年は、富士宮ルートでカウンターの不具合による欠測期間 (8/14～9/10) が発生

※4 : 2019 年は、吉田ルートで山頂付近の崩落により、7/1 に八合五勺まで開通 (全線開通は 7/9 15 時)

※5 : 2020 年は、コロナのまん延防止のための閉山によりデータなし

※6 : 2021 年は、カウンターの不具合により御殿場ルート(7/13～14、7/28～30、8/9、8/18、9/5～6)、富士宮ルート(7/10～8/3)の欠測期間が発生

※7 : 2022 年は、カウンターの不具合により須走ルート(7/10～14)、台風・強風に伴い御殿場ルート(8/12～14、8/18～19)の欠測期間が発生

出典 : 環境省ウェブサイト

(2) 来訪者管理に係る主な取組【2022年度】

<登山者の安全対策・マナー啓発>

◆ 安全誘導員（富士宮ルート、須走・吉田ルート）の配置

- ・ 富士宮口山頂、九合五勺、八合目付近におけるソーシャルディスタンス確保等のマナー啓発、混雑緩和、情報収集
- ・ 吉田・須走合流地点より上方の登山者の安全確保

◆ 登下山道の巡回の実施

- ・ 登下山道において、日中、富士山レンジャーが巡回し、マナー啓発等を実施（混雑期（お盆時期）は、夜間にも拡大）（山梨県）
- ・ 登山道及び下山道の点検、整備

◆ 混雑回避（登山者の平準化）の働きかけ

- ・ 「混雑予想カレンダー」のチラシの配布（両県）、「安全登山周知のためのパンフレット」への混雑予想カレンダー掲載（静岡県）
※ 富士登山オフィシャルサイト等のホームページへの掲載
- ・ 新たに30秒啓発動画を作成し、混雑緩和を周知
- ・ 混雑平準化のための従来動画「富士登山のススメ」を富士登山オフィシャルサイト、富士山世界文化遺産協議会HP等への掲載

◆ 登山者等への感染症対策

- ・ 2021年度に引き続き、各登山口及びマイカー規制乗換え駐車場において検温と体調確認を実施。体調確認済の方にリストバンドを配布。体調不良者には登山の自粛の呼びかけを実施
- ・ 2021年度に引き続き、体調不良者の登山自粛や山小屋の事前予約、感染対策グッズの持参などを明記した「With コロナ時代における富士登山マナー」を両県HPや富士登山オフィシャルサイト等を通じて周知
- ・ 混雑地点でのソーシャルディスタンス確保を呼びかける看板設置（静岡県）
- ・ 山麓市町の宿泊施設のうち希望する施設と協定を結び、チェックアウト時に検温・体調チェックを実施（静岡県）

◆ SNSの活用

- ・ Twitterを活用し、富士登山の安全登山情報(気象情報・混雑情報)を発信

3. コロナによる影響

(1) 社会的影響

i) 調査結果

ア 山小屋調査（山小屋アンケート）

a) 山小屋利用者について

■ 宿泊定員数と開山期における総宿泊者数

区分	区分	コロナ前（2019年）		コロナ下（2021年）	
		回答数	割合	回答数	割合
定員数	～50人	6	20.7%	14	48.3%
	51～100人	4	13.8%	7	24.1%
	101～200人	11	37.9%	8	27.6%
	201人～	8	27.6%	0	0.0%
	計	29	100.0%	29	100.0%
総宿泊者数	～1000人	9	36.0%	15	60.0%
	1001～2000人	3	12.0%	5	20.0%
	2001～3000人	2	8.0%	3	12.0%
	3001人～	11	44.0%	2	8.0%
	計	25	100.0%	25	100.0%

- ・ コロナ前（2019年）とコロナ下（2021年）における山小屋の宿泊定員数は、定員数を削減した山小屋が多く、コロナ前は101～200人規模で経営する山小屋が多かったのに対して、コロナ下においては50人以下の定員で経営した山小屋が約半数を占めた。また、201人以上の定員で経営する山小屋は新型コロナ前には27.6%いたが、コロナ下においてはゼロとなった。
- ・ 開山期における総宿泊者数は、コロナ前は3,001人以上と回答した山小屋が多かったが、コロナ下では1,000人以下と回答した山小屋が最も多く6割を占めており、多くの山小屋で宿泊者数が減少した。
- ・ 回答した山小屋の宿泊定員数の平均値は、コロナ前：153人、コロナ下：75人であった（50.9%減）。一方、総宿泊者数の平均値は、コロナ前：3,805人、コロナ下：1,195人で、68.6%減であった。

■ 山小屋利用者数（宿泊／宿泊以外）の変化

区分	宿泊	宿泊外	宿泊	宿泊外
増えた	0	0	0.0%	0.0%
変わらなかった	0	1	0.0%	3.2%
1~2割減った	1	0	3.4%	0.0%
3~4割減った	4	3	13.8%	9.7%
5~6割減った	6	7	20.7%	22.6%
7~8割減った	15	15	51.7%	48.4%
9割以上減った	3	5	10.3%	16.1%
計	29	31	100.0%	100.0%

- ・ コロナ前（2019年）と比較したコロナ下（2021年）における山小屋利用者数は、宿泊者と宿泊以外の利用者ともに「7~8割減った」とする山小屋が最も多く、約半数を占めた。
- ・ 次に多いのは、宿泊者及び宿泊以外の利用者ともに「5~6割減った」「9割以上減った」となっており、コロナ前と比較して利用者数が激減した。

■ 山小屋利用者数（タイプ別）の変化

区分	ガイドツアー	若者	中高年	家族連れ	外国人	ひとり
増えた	0	0	0	0	0	4
変わらなかった	0	4	3	4	0	2
やや減った	5	8	6	5	0	9
とても減った	24	18	20	21	30	15
計	29	30	29	30	30	30

区分	ガイドツアー	若者	中高年	家族連れ	外国人	ひとり
増えた	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%
変わらなかった	0.0%	13.3%	10.3%	13.3%	0.0%	6.7%
やや減った	17.2%	26.7%	20.7%	16.7%	0.0%	30.0%
とても減った	82.8%	60.0%	69.0%	70.0%	100.0%	50.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

- ・ 山小屋利用者数をタイプ別に分けて見てみると、タイプによって多少傾向の違いはあるものの、いずれのタイプにおいても「とても減った」が最も多くなった。
- ・ 中でも、外国人は、海外から日本を訪れる観光客がほぼいなくなった影響を受けて、全ての山小屋が「とても減った」と回答した。一方で、「変わらなかった」と回答した割合が比較的高かったのは、若者、家族連れで13.3%であった。
- ・ ひとりでの山小屋利用者数においてはコロナ前と比較して「増えた」とした山小屋も13.3%存在した。

b) 登山者に対するコロナ対応について

- 県基準・ガイドライン（静岡県：富士山山小屋における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン、山梨県：感染症予防対策に係る基準）に対する対応状況

区分	回答数	割合
徹底できた	7	38.9%
概ね徹底できた	10	55.6%
あまりできなかった	1	5.6%
計	18	100.0%

- ・ 「概ね徹底できた」とする山小屋が最も多く、半数強（55.6%）であり、「徹底できた」と合わせて94.4%と、多くの山小屋で県基準・ガイドラインが概ね遵守されていた。

- 県基準・ガイドライン以外の取組（自由記述）

吉田口	食事中、パーテーションだけでなくグループごとにテーブルを離れた。
御殿場口	エアークンプレッサーで使用済の寝具の表面を空気圧で弾き飛ばしました。（勿論野外で、使用しました。）
御殿場口	大型扇風機による強制換気を実施 入口にて全身消毒を実施
須走口	オゾン殺菌 - 4台 サーキュレーター - 2台
須走口	営業期間の大幅な短縮
須走口	抗菌塗装
須走口	土曜日でも2~3人の登山者しか泊まらなかったため、特に取り組む必要がなかった。20人位の日が3回しかなかった。平日は0に近かった。
富士宮口	家族・グループ・個人単位でカーテンにより仕切を実施した。共同使用のサンダルを廃止した。
富士宮口	入口での検温・消毒 テーブルにアクリル板 宿泊スペースをいつもより広くとった（ふとん1枚につき1人）。空気清浄機を設置した。

- ・ エアークンプレッサーや大型扇風機、空気清浄・殺菌装置等の機器の設置を行ったケースが見られた。
- ・ 共用備品（サンダル）の廃止や、1人当たりスペース（食事時、睡眠時）の確保・拡大を行った山小屋も見られた。
- ・ 利用者自体が少なく、取り組む必要がなかったとした山小屋や、営業期間を大幅に短縮したとする山小屋もあった。

■ 取組の中で小屋内での遵守や登山者に守ってもらうことが難しかったもの（自由記述）

吉田口	外を歩く登山者、休憩中の登山者でマスクをしているものは皆無だった。登山道や旅行の道中でノーマスクで接触しているものが小屋内でのみ徹底した対策を一人一人に施さなければならぬのが難しかった。
吉田口	黙食・弾丸登山※
吉田口	全般的に内容が厳しく、守ってもらうことが難しい。このような基準があると、営業ができない。段階的廃止が必要。また、このような基準がある限り、山小屋の営業が厳しく、廃業する山小屋も出てくる可能性があると思われる。現に私共の山小屋も、経営が厳しく、営業をしたくないのが本音ではあるが、登山者を守るためにも山小屋は必要であるため、私財をつぎ込んで営業している状況である。
吉田口	夜行における弾丸登山※
御殿場口	夜間の登山者の呼びかけ（弾丸登山※者に向かったの）
御殿場口	山小屋前のスペースがせまいため、登山者、下山者、休憩者が多少密になっていた。
須走口	体温チェック・天候及び体調により正確な体温測定ができなかった。
須走口	酒類の販売中止及び持ち込みの禁止
須走口	対応に問題が出る程登山者がいなかった。
富士宮口	消毒検温器が気圧の関係か使えなかった。（検温のみ不可）外でマスク着用・大きな声での会話の自粛
富士宮口	標高が高いため、マスク着用を促しづらい
富士宮口	登山者の協力もありコロナ対応できました。

- ・ 登山者が少なかったことも含めて特に問題がなかったとした山小屋も複数見られたが、一方で、弾丸登山や黙食の呼びかけや、高地あるいは悪天候によって正確な検温が難しかったと回答した山小屋も見られた。
- ・ 基準・ガイドラインの内容が厳しい、あるいは登山道など屋外ではノーマスクでいるにもかかわらず、山小屋内ではマスクの着用を求めることが難しかった等の回答もあった。

※ 「弾丸登山」とは、御来光目的で事前に十分な休息を取らず夜通し登山を行うことをいう。

c) 経営面におけるコロナ対応について

■ 従業員数の変化

区分	回答数	割合
増やした	0	0.0%
変えなかった	2	6.5%
1~2割減らした	10	32.3%
3~4割減らした	12	38.7%
5~6割減らした	5	16.1%
7~8割減らした	1	3.2%
9割以上減らした	1	3.2%
計	31	100.0%

- ・ コロナ前（2019年）とコロナ下（2021年）における山小屋の従業員数は、「3~4割減らした」とする山小屋が最も多く38.7%、次いで「1~2割減らした」の回答が32.3%であった。
- ・ 山小屋の利用者数については、宿泊及び宿泊以外の利用ともに「7~8割減った」山小屋が最も多かったのに対して、従業員の削減割合は低位にとどまっている。

■ 宿泊料金（平均）の変化

区分	回答数	割合
5割以上上げた	1	3.4%
3~4割上げた	2	6.9%
1~2割上げた	16	55.2%
変えなかった	9	31.0%
1~2割下げた	1	3.4%
3~4割下げた	0	0.0%
5割以上下げた	0	0.0%
計	29	100.0%

- ・ コロナ前（2019年）とコロナ下（2021年）における山小屋の宿泊料金（平均）は、「変えなかった」山小屋が約3割（31.0%）で、それ以外の山小屋は値上げをしているケースが多かった。
- ・ 値上げの割合は、「1~2割」とする山小屋が全体の半分強（55.2%）で最も多く、それ以上の値上げを行った山小屋も約1割（10.3%）存在した。

■ 利用した支援策

区分	回答数					
	静岡県	山梨県	環境省	持続化給付	雇用調整	貸付・給付
利用した	17	11	0	25	3	13
検討のみした	0	1	1	0	1	0
利用しなかった	6	4	13	4	16	10
知らなかった	3	5	11	0	5	2
計	26	21	25	29	25	25

区分	割合					
	静岡県	山梨県	環境省	持続化給付	雇用調整	貸付・給付
利用した	65.4%	52.4%	0.0%	86.2%	12.0%	52.0%
検討のみした	0.0%	4.8%	4.0%	0.0%	4.0%	0.0%
利用しなかった	23.1%	19.0%	52.0%	13.8%	64.0%	40.0%
知らなかった	11.5%	23.8%	44.0%	0.0%	20.0%	8.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

- ・ 「持続化給付金」が最も多く全体の86.2%の山小屋が利用した。また、両県の用意した支援策についても静岡(富士山安心・安全対策事業)、山梨(新しい生活様式推進山小屋施設支援事業)の両県ともに過半数の山小屋が「利用した」と回答した。
- ・ 「自治体による貸付や給付金」についても、約半数(52.0%)の山小屋が「利用した」と回答した。

■ 支援策に対して、使い勝手の良かった点や不便だった点(自由記述)

吉田口	言っていることが二転三転(補助金が使えと言っていたものが急遽対象外になるなど)して戸惑った。
吉田口	新しい生活様式推進山小屋施設支援事業に関しては、条件として問題無かったが、以降の支援策は、グリーンゾーン認証取得という、押し付け的な条件が付加されてしまい、山小屋は対象外となった。グリーンゾーン認証施設の対象にされ、規制をかけられたくはないので、対象から除外されたことは良かったのだが、今後始まる県民割も条件として、グリーンゾーン認証取得が必須となっており、受けることができない。また、県民割が静岡の山小屋では適用でき、山梨の山小屋では、適用できないなどあると、自然的な競争力がなくなってしまう。他の県のように、すべての事業者を対象にして、分け隔て無い支援としてほしい。そして、山小屋の基準を作成するにあたって時間を浪費し、大変迷惑した。全国の山小屋と同じ対策水準での営業ができるようにしていただき、事業が継続できるように改善して欲しい。
御殿場口	備品類は補助、消耗品は県は対象外
御殿場口	県・市からの、助成給付金は大変助かりました。とても、感謝申し上げます。
御殿場口	備品類は補助の対象となったが消毒液など消耗品は対象外であった。
須走口	書類等が複雑で対応に苦慮した。使い勝手は、たいへんに悪い。
須走口	短期間の申請が必要であり十分な検討ができなかった。
須走口	山梨県との支援金の大幅な差(1/3以下)
須走口	山梨、静岡支援費の違い。消耗品費は小山町(一部)
須走口	書類の作成が難しい。
富士宮口	県の補助金は、感染対策のみだったので使いづらかった。

- ・ 書類作成が煩雑であったこと、消毒液等の消耗品が対象外となったこと、両県の間や国内の他地域と条件・内容に差があったこと等を挙げる山小屋が見られた。

■ 新型コロナを契機とした経営方針の見直し

定員数	回答数	割合	宿泊料金	回答数	割合
増やす	3	9.7%	値上げする	11	35.5%
変更しない	12	38.7%	変更しない	13	41.9%
減らす	4	12.9%	値下げする	0	0.0%
未定	9	29.0%	未定	6	19.4%
その他	3	9.7%	その他	1	3.2%
計	31	100.0%	計	31	100.0%

- ・ 定員数、宿泊料金ともに「変更しない」とした山小屋が最も多く約4割（定員数：38.7%、宿泊料金：41.9%）であった。
- ・ 「未定」とした山小屋も定員数で約3割（29.0%）、宿泊料金で約2割（19.4%）あった。
- ・ 方針の変更を考えている山小屋は、定員数については「増やす（9.7%）」と「減らす（12.9%）」の両方の考え方が存在した。一方、宿泊料金については「値下げする」方針の山小屋はおらず、「値上げする」とした山小屋が35.5%となった。

d) 今後の方向性について

■ 富士登山が抱える課題（複数回答）

	回答数	割合
週末やお盆時期の混雑	11	35.5%
遭難等の登山事故	3	9.7%
登山マナー	17	54.8%
富士山における環境破壊	4	12.9%
世界的な気候変動による天候不順	11	35.5%
登山者への情報提供	10	32.3%
登山客の満足度の向上	8	25.8%
弾丸登山や軽装備など登山知識の不足	24	77.4%
新型コロナ対応	8	25.8%
外国人登山者への対応	10	32.3%
五合目までの交通アクセス方法	9	29.0%
登山者数の逓減	10	32.3%
その他	9	29.0%
計	31	100.0%

- ・ 富士山が抱える課題については、選択率が高い順に「弾丸登山や軽装備など登山知識の不足（77.4%）」、「登山マナー（54.8%）」、「週末やお盆時期の混雑（35.5%）」であった。
- ・ 上記以外にも「世界的な気候変動による天候不順」、「登山者への情報提供」、「登山者の満足度の向上」、「新型コロナ対応」、「外国人登山者への対応」、「五合目までの交通アクセス方法」、「登山者数の逓減」等、各項目でまんべんなく回答が挙げられた。

■ 課題を解決するために必要なこと（自由記述）

吉田口	スバルラインの時間規制。
吉田口	五合目の徴収員の態度の悪さ、知識のなさを改善してほしい。
吉田口	・日毎の入山総量規制（入山ゲートによる入山時間規制、弾丸登山の禁止）・アプリ等（災害時にも利用可能）を利用した、自然・文化情報・登山道混雑情報の提供
吉田口	弾丸登山の抑制については、富士スバルラインの収益を目的とするマイカー規制拡大や夜間営業しないことが一番良い。スバルラインのマイカー規制期間を2019年ベースに戻し、営業時間は、4:00～18:00にして頂ければ、かなり弾丸登山を抑制できる。また、五合目に長期滞在して、夜間弾丸登山する登山者の抑制にも力を入れて欲しい。遭難等の登山事故については、救護体制も山小屋まかせにはせず、常に出動できる、消防隊員等を配置して欲しい。山小屋は宿泊者対応に特化しているので、救急では素人。山小屋の人間を救急隊員に仕立て上げれば良いという考え方は改めて欲しい。
吉田口	PR活動、弾丸登山の危険度の認識。
吉田口	スバルラインの時間規制
須走口	いろいろな規制があり、昔の富士登山とは変わりました。世界遺産となり、トイレやいろいろな事が、よくなったとは思いますが、登山者は、2013年から減少しつづけています。山小屋を利用するお客様も減少しつづけています。若いアルバイト、ガイド等の人達もいなくなっている状態が現状だと思います。このような状態で課題の解決は、むりな状態です。経営者は、自分の小屋のやりくりで対応出来ません。人がいなければムリです。
須走口	マイカー規制により来客数減少になるためマイカー規制日数の削減を望む
須走口	外国特に欧米などの一般的な文化的にレベルの高い国では山小屋のような営業の対象になりにくいものは、公共機関の投資が多い。日本は教育・芸術等すぐに利益のあがらない物への投資をあまりしない。その結果が現在の状態である。その為、即利益になる研究（科学的）も進まなくなっている。イギリスの社会学者バートランド・ラッセルは、60年～70年も前に、自然科学の発達に人文科学が追いついていかなくなる、と世界に注意喚起していた。日本は特に今まで利益率の悪い物や利益に時間のかかる事に投資をしてこなかった。日本はいつからか、そんな文化レベルになってしまったのである。政府官僚は長期を見通した投資を考えて欲しい。山小屋は何の為にあるのか、しっかりと位置付けを検討して欲しい。
須走口	八合目音声案内を実施しているが、下山者は立ち止まっては聞かない。視覚に対応出来るルート案内が必要。
富士宮口	行政と山小屋の情報共有と行政の現状把握が必要だと思います。

- ・ 吉田口では、弾丸登山の防止対策として、スバルラインの通行時間のコントロールを挙げる声が多くあった。一方、須走口では、近年の登山者数減少に対する対策を希望する声もあった。

■ 富士登山の今後のあり方に関する自由意見（自由記述）

吉田口	弾丸登山をなくす。
吉田口	規制を緩和して自由な登山を 富士山は自然のもので誰もが自由に登れる山であるべき。
吉田口	山小屋定員の減少に伴い、世界遺産の管理に係る適正登山者数の見直しが必要・さらなる抜本的な利用の管理を行わなければ、弾丸登山だらけで山小屋が立ちゆかなくなり、文化を支える存在が失われていくことになるでしょう。
吉田口	新型コロナウイルス感染症対策では、山梨県は、山小屋を助けるよりも規制を強化する。
御殿場口	富士山は、ハダカ山なので1シーズン中の登山者を減らす方向にした方が後世の為になるのではないのでしょうか？
御殿場口	信仰登山から観光登山になり、これからはリフレッシュ登山を推奨し時間をかけて登山してもらおう。
須走口	今後、コロナの収束でインバウンド外国人のお客が増えるが、人員がいないので対応出来なくなると思います。山小屋も、経営がよくないので宿泊料金を上げて、宿泊者の人数は少なくしているようです。各山小屋が、小規模になり、休館又は、経営しなくなる方向に進むはずで。行政の対応がなければ、やめていく小屋が増える変換期に今後進むはずで。
須走口	富士登山5ルートの実情に合わせた統一規制でなくルート毎の対策を強く望む。
須走口	静岡、山梨では登山者数が大きく違いがあるのは、交通アクセスが問題である。都内からの直行便等考えるべきである。（静岡側）案内所で山梨側のルートのみ説明（登山客より）を受けている。

- ・ 弾丸登山への対応、登山者数（制限）に対する考え方、行政の対応のあり方に対する意見がそれぞれあった。

イ 山小屋調査（山小屋ヒアリング）

a) 山小屋利用者について

- ・ 2021年の登山者タイプで特徴的だった点は、ツアーがかなり減ったこと。密集するイメージがあったために避けられたのではないかと。一方、年代の偏りはそこまで見られなかった。（山梨）
- ・ 外国人登山者は激減した。米軍関係者は一部見られたが、多くが日帰りであった印象。（山梨）
- ・ 2021年は宿泊者も日帰りも例年の3~4割程度だった。定員を半分にしたが、それでも埋まらないくらい少なかった。ちょうどコロナの感染も多く、蔓延防止が始まったタイミングで状況が悪かった。天候不順と道路の崩壊も影響した。直前キャンセルも多かった。（静岡）
- ・ コロナ前、例年混んでいた時期の登山道の渋滞が見られなかった。御来光の混雑もほとんどなかった。特に、ツアー客が大きく減った。例年は30~40程度の団体が見られるがほとんどが無くなった。一方で個人グループや一人の登山者は多かった。日中の日帰り登山も少なそうだったので、宿泊が減って日帰りに切り替わったわけではないだろう。（静岡）
- ・ ツアー会社との契約もあるが、東京が緊急事態宣言のため、送客が無かったことによる影響が大きかった。最盛期のお盆は天候が悪く登山ができる状況ではなかった。（静岡）
- ・ 昨年はコロナによる収容人数制限の影響もあり、山小屋を利用しないで、日帰りあるいは弾丸登山の利用者が増えた。その結果、若者の割合が増えている。年配者には日帰りは体力的に難しい。外国人は一気に減った。ただし、在日外国人は散見された。お盆休みの時期はベトナム人が多かった。ベトナム人コミュニティで富士山に集まるイベントが開催されているらしい。（静岡）
- ・ 外国人の弾丸登山は少数だった。一時期のように頂上で焚火をするといった迷惑行為はほとんどなかった。登山者が多いと集団心理が働いて、悪い行動も増幅する。そういう意味で山小屋の困った声も少なかった。（静岡）

b) 登山者に対するコロナ対応について

- ・ コロナ対策についてはほとんど問題なくできたと認識している。県の指導もあり、組合としては完璧な状況で臨んだ。（山梨）
- ・ 高山病とコロナの見分けがつかないことは不安要素だった。八合目まで行くと高山病になる人も増えるかもしれないが、山小屋として簡単には受け入れられない。（山梨）
- ・ 入館前の検温はあまりうまくいかなかった。原因は機器の問題なのか、気圧の関係か、お客さんの体が冷えているからなのか分からないが、うまく作動しなかった。検温は五合目するのがベストだと思う。（静岡）
- ・ ソーシャルディスタンスについて、登山道での2mの間隔確保はできていない。登山中のマスクも厳しい。ベンチで座っている人もマスクをつけていない。（静岡）
- ・ 山には水がないので、山小屋でできる感染対策は消毒とマスクしかない。（静岡）
- ・ お客さん、スタッフともに、アルコール類の提供は一切中止した。持込も制限したが、登山者からは苦情を受けた。2022年からはビールくらいは置きたいと思っている。スタッフにもこれ以上窮屈な思いをさせたくない。（静岡）

- ・ 県のコロナ対策は基本的に全て遵守するが、それ以外についてはそれぞれの山小屋の実情に合わせた判断に任せている。組合として特段の方針は定めていない。ただ、山小屋でコロナが出てしまうと閉業せざるをえない。このため、コロナ感染については山小屋側も非常に不安を抱えているし、慎重にならざるをえない。(静岡)

c) 経営面におけるコロナ対応について

- ・ 助成金の金額が定額以内で決まっていたが、山小屋の規模によって費用が異なるため、山小屋の特徴に応じた支援が得られると良かった。(山梨)
- ・ ネットで買ったものは認められないという縛りがあったため、その分は自腹になった。そのあたりのルールがよくわからなかった。また、**2022**年は消耗品の支援がないので負担になる。(山梨)
- ・ アルバイトは若干減らした。しかしやること自体は増えているため、大きくは減らせなかった。お客さんが**6**割減っても、従業員は**2~3**割程度しか減らせない。(山梨)
- ・ アルバイトは人材不足で雇えていない。去年は経費も賄えなかった。**2022**年は、**2/3**ほどの定員で運営する。(静岡)
- ・ どの山小屋も経営は、赤字かトントン。かなり厳しい切羽詰まった状況。**2021**年はなんとか営業していたが、**2022**年は開けられないという山小屋も出てきている。(静岡)
- ・ 収容定員制限はコロナに関係なく元には戻せないと考えている。コロナ以前の宿泊客詰め込みはいき過ぎた部分もあった。山梨側では宿泊料金が上がっているようだが、料金を下げて収容人数を増やすことは難しいのではないか。(静岡)
- ・ コロナ対策として実施した改装・改築等も出費があり、コロナ以前の料金に戻すのは難しい。補助金も上限があるため、規模が大きい小屋は補助金だけでは賄いきれない。(静岡)

d) 今後の方向性について

- ・ スバルラインの時間規制緩和については、やり方によって弾丸登山も発生するので、小屋も慎重になっている。弾丸登山者がいると人を置く必要が出てくる。時間規制があると、夜間に人を配置しなくてよくなったため、経営的な負担が少なくて済んでいる。(山梨)
- ・ 国内在住の外国人でマナーが悪いケースが増えてきた。初めての登山で、ゴミの放置や禁止エリアでのテント設置のトラブルが増えている。(山梨)
- ・ マナーを守れる外国人登山者は、大抵の山小屋には外国語のできる従業員がいるので問題にはあまりならない。逆に外国人は平日に来てくれるため、平準化に寄与している面もある。(山梨)
- ・ お盆シーズンにはアジア系の在日外国人も集中していた。他の客層が少ない分際立って見えた。勤務している会社は別だが、同じ国のコミュニティで集まってきていると思われる。関東在住の方が多い。国の習慣の違いがあり、マナーを知らないだけなので、広報の課題もある。以前はもっとひどかったが近年は改善されてきた。マナーが悪くてもお金を落としてくれる存在なので、いかにしてマナーを伝えられるかが課題である。(静岡)

- 物価高対応で料金を上げるところは増えると聞いている。組合全体で上げる可能性もある。料金を上げたことに対して、今のところお客様からのクレームなどは来ていない。混雑が減って満足度が改善するのは良いこと。スペースを広くとってより満足度を上げるという方向もありえる。(静岡)
- 山小屋の宿泊料は今後上げざるを得ないだろう。物価も上がってきており、荷揚げするブルドーザーの燃料費も上がっている。しかしどれくらい値上げすればよいか読み切れない。他の登り口との力関係もある。(静岡)
- 県警・救助隊の常駐がなくなったことが課題。週末は来てもらえることになったが、緊急の際に下から登ってくるには3時間はかかる。常駐してもらおうほうが山小屋もお客さんも安心できる。(静岡)
- 個人客向けをメインターゲットに営業するかどうかは、経営者の考え方で判断が分かれてくるだろう。ツアー客の集客状況はコロナ前から良くなかった。個人客をターゲットに部屋を改装した山小屋もあった。一方でツアーを中心に営業している山小屋もある。収容人数が大きい山小屋はツアー会社に収容人数の半分くらいを渡してしまってもいいかもしれないが、収容人数が少ないところは難しい。埋まらなかった時の影響も大きい。(静岡)
- 協力金について、始めた当時と比べると当たり前になって定着してきた感じがある。当初は麓で協力金を払っているのに、なぜトレチップを追加で払わなければいけないのか、といったクレームがあったが、現在は定着してきた。(静岡)

ウ 登山ガイド調査（登山ガイドヒアリング）

a) 登山ガイド利用者について

- ・ 以前はガイドひとりで 40 人ぐらいを見ていた。組合としてはグループ人数を少なくするよう要望しており、現在は 1 団体 15~20 人ほどになっている。しかし 20 人だと、コストの関係で以前は同行していたツアー添乗員が同行しない。（山梨）
- ・ ガイド利用者は通常の 1/3 程度になった。ガイドにもよるが、エージェントが頑張ってくれた小屋にはもっと来ている。インバウンドが中心だった小屋は 9 割減だった。（山梨）
- ・ 2021 年と 2020 年の影響で、ガイドでは稼げなくなり、別に就職した人もいる。このため、2022 年は土曜日しか来られないガイドもいる。一方、山小屋はかなり厳しかったようだが、ガイドはそこまで悪くなかった。旅行会社はお客さんを保持するために、人数が 2~3 人でもツアーを催行してくれていた。（静岡）
- ・ 初期には県をまたぐことが難しく、他県ナンバーが排除されるような状況もあったので、2020 年度の春先はほぼゼロになった。不要不急の外出を控えるような流れの中で、レクリエーションで他県に行くことへの抵抗が大きかった。もともと数は多くなかったが、そのタイミングではリピーターも含めて一旦ゼロになった。（静岡）

b) 登山者に対するコロナ対応について

- ・ ガイドラインは昨年手探りで決めた。ガイドは基本マスク着用だが実際にはきつい。特に雨の時。（山梨）
- ・ お客様には、通常歩行時はマスクを外していいことにしている。渋滞する際や施設内、会話するときは着用。ガイドもそれに準じている。県で決めたガイドラインにもあるが、間隔を 2m とることになっている。しかし人が集中する時間帯は難しい。（山梨）
- ・ 2021 年はコロナ最盛期でも、高山病の危険があるため登山者にはマスクを外してもらった。山小屋に入るときだけマスクをつけてもらった。（静岡）
- ・ 登山中に距離をとらせることも難しい。遠くにいと例えば落石の際に声が届かない。適宜、場所によって回避する方法を伝えている。（静岡）
- ・ 2m の間隔をあけて歩くというルールは難しい。そこで昨年は独自ルールとして互い違いの列になって歩くようにしてもらった。また、休憩時に屋外ではマスクはさせていない。山小屋など人が多い場所では気を遣って着用してもらうようにしている。混雑している広場などは通過し、登山道の広い場所で休憩を取ったりしていた。最低限のルールは守ってくださいとお願いをしている。（静岡）

c) 経営面におけるコロナ対応について

- ・ コロナ下でのガイドへの支援等はなかった。（山梨）
- ・ 人数が減ってインバウンドがない状況で、個人の満足度は高くなったが、この状態で収入を得るためには、山小屋もガイドも倍ぐらいに単価を上げる必要がある。（山梨）

- ・ 大半のガイドは旅行会社の募集型ツアーに付くが、個人がガイドを雇う形が定着すれば、収入的にもやっていける。(山梨)
- ・ ガイドも費用がかかる。靴も合羽もそれぞれ2~3万円するが、1年で使えなくなる。車で何度も山に登るためガソリン代も非常にかかる。(静岡)
- ・ 収容人数が減っているため山小屋の料金は上がっている。それに加えてガイド料を値上げするのは登山者の負担が大きくなりすぎてしまう。そのことを考えて、ガイド料金は基本的に変えずにやっている。(静岡)
- ・ 行政からの支援としては、環境省からコロナに対応した新たな形態でのツアー造成に対する補助金の募集があったので、エントリーした。小グループで宿泊できるようなテントの導入や、密にならないカヤック等のツアーのための物品購入といった形で、自然体験系の事業者ではこの補助金を活用したところも多いと思う。(静岡)

d) 今後の方向性について

- ・ 弾丸登山は絶えない。御来光を山頂で見たいという人が多い。各小屋でも見られるということを知りたい。ツアー会社の問題もある。山頂での御来光という宣伝文句で売っている。(山梨)
- ・ 国内在住の外国人グループで近年、お盆時期に来て大量のゴミを登山道に捨てていくケースが出ている。特に日帰りの場合のマナーが悪い。(山梨)
- ・ コロナ前だが弾丸登山のインバウンドツアーで、安い値段で間にエージェントが入っていることもあった。(山梨)
- ・ 山や自然の魅力を知る上で、富士山は県内の子供にとって大きな威力を持つものであるので、次世代に富士山の価値をしっかりと伝えられる人や団体と連携して進めていくことは意義があると思う。(静岡)

エ 登山意識調査

※ スクリーニング調査で「富士登山へ関心のある層」1,000 人のみを抽出して調査。

※ かつ、1,000 人は「富士登山経験者」500 人、「富士登山未経験者」500 人で構成している。経験有無によるクロス集計は本報告書 参考資料に掲載している。

a) 富士登山意向

■ コロナが感染拡大傾向にあるとき（自粛要請等は出ていない）

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
希望する登山形態のまま登りたい	321	32.1%	206	22.3%	9.8%
登山形態を変えて登りたい	334	33.4%	243	26.3%	7.1%
登りたくない	345	34.5%	476	51.5%	-17.0%
計	1000	100.0%	925	100.0%	

（「登山形態を変えて登りたい」場合の変更内容）

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
登山ルートを変更する	121	36.2%	73	30.0%	6.2%
ご来光を目的としない行程に変更する	72	21.6%	51	21.0%	0.6%
宿泊を伴わない行程に変更する	140	41.9%	71	29.2%	12.7%
登山日を変更する（混雑がより少ない日を選ぶ）	167	50.0%	112	46.1%	3.9%
同行者を単独もしくは同居する家族に変更する	43	12.9%	31	12.8%	0.1%
同行者の人数を減らす	71	21.3%	62	25.5%	-4.3%
ガイド付き団体登山ツアーへの参加をやめる	41	12.3%	40	16.5%	-4.2%
その他	1	0.3%	0	0.0%	0.3%
計	334	100.0%	243	100.0%	

- ・ 「希望する登山形態のまま登りたい」人は **32.1%**、「登山形態を変えて登りたい」人が **33.4%**、「登りたくない」人が **34.5%**と、ほぼ同程度ずつであった。
- ・ 2年前の調査時と比較すると、登りたい人の割合が増えており、コロナの感染状況に影響を受ける人の割合が減っている。
- ・ 「登山形態を変えて登りたい」とした人の変更したい内容としては、「登山日の変更（混雑がより少ない日を選ぶ）」が最も多く **50.0%**、次いで「宿泊を伴わない行程に変更する」が **41.9%**、「登山ルートを変更する」が **36.2%**となった。2年前の調査時から比較すると、「宿泊を伴わない行程に変更する」を選択する割合が、**29.2%**から **41.9%**と比較的多くなっている。

■ 居住地域で不要不急の往来や外出自粛要請が発出されているとき

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
希望する登山形態のまま登りたい	209	20.9%	165	17.8%	3.1%
登山形態を変えて登りたい	262	26.2%	163	17.6%	8.6%
登りたくない	529	52.9%	597	64.5%	-11.6%
計	1000	100.0%	925	100.0%	

（「登山形態を変えて登りたい」場合の変更内容）

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
登山ルートを変更する	91	34.7%	38	23.3%	11.4%
ご来光を目的としない行程に変更する	64	24.4%	31	19.0%	5.4%
宿泊を伴わない行程に変更する	92	35.1%	44	27.0%	8.1%
登山日を変更する（混雑がより少ない日を選ぶ）	108	41.2%	81	49.7%	-8.5%
同行者を単独もしくは同居する家族に変更する	43	16.4%	17	10.4%	6.0%
同行者の人数を減らす	64	24.4%	45	27.6%	-3.2%
ガイド付き団体登山ツアーへの参加をやめる	25	9.5%	18	11.0%	-1.5%
その他	1	0.4%	0	0.0%	0.4%
計	262	100.0%	163	100.0%	

- ・ 前提条件を「居住地域で不要不急の往来や外出自粛要請が発出されているとき」とした場合には、「登りたくない」人の割合が増えて約半数（52.9%）となった。ただし、2年前の調査時と比較するとその割合はやや減少した（11.6ポイント減）。
- ・ 「登山形態を変えて登りたい」とした人の変更したい内容としては、「登山日の変更（混雑がより少ない日を選ぶ）」、「宿泊を伴わない行程に変更する」、「登山ルートを変更する」等が多い傾向は前問までと同様である。

■ 居住地域で緊急事態宣言が発出されているとき

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
希望する登山形態のまま登りたい	188	18.8%	144	15.6%	3.2%
登山形態を変えて登りたい	196	19.6%	144	15.6%	4.0%
登りたくない	616	61.6%	637	68.9%	-7.3%
計	1000	100.0%	925	100.0%	

（「登山形態を変えて登りたい」場合の変更内容）

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
登山ルートを変更する	68	34.7%	40	27.8%	6.9%
ご来光を目的としない行程に変更する	38	19.4%	28	19.4%	-0.1%
宿泊を伴わない行程に変更する	65	33.2%	36	25.0%	8.2%
登山日を変更する（混雑がより少ない日を選ぶ）	70	35.7%	67	46.5%	-10.8%
同行者を単独もしくは同居する家族に変更する	31	15.8%	17	11.8%	4.0%
同行者の人数を減らす	33	16.8%	38	26.4%	-9.6%
ガイド付き団体登山ツアーへの参加をやめる	23	11.7%	20	13.9%	-2.2%
その他	1	0.5%	0	0.0%	0.5%
計	196	100.0%	144	100.0%	

- ・ 前提条件を「居住地域で緊急事態宣言が発出されているとき」とした場合には、「登りたくない」人の割合がさらに増えて約6割（61.6%）となった。ただし、2年前の調査時と比較するとその割合はやや減少している（7.3ポイント減）。
- ・ 「登山形態を変えて登りたい」とした人の変更したい内容としては、「登山日の変更（混雑がより少ない日を選ぶ）」、「宿泊を伴わない行程に変更する」、「登山ルートを変更する」等が多い傾向は前問までと同様である。

b) 富士登山における今後の対策

■ 人数制限

1日あたりの入山可能人数を制限する	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	481	48.1%	1277	68.7%	-20.6%
まあ賛成	336	33.6%	440	23.7%	9.9%
どちらともいえない・わからない	161	16.1%	117	6.3%	9.8%
やや反対	15	1.5%	14	0.8%	0.7%
反対	7	0.7%	12	0.6%	0.1%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

富士登山全体を事前予約制にする	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	390	39.0%	1159	62.3%	-23.3%
まあ賛成	347	34.7%	455	24.5%	10.2%
どちらともいえない・わからない	202	20.2%	190	10.2%	10.0%
やや反対	38	3.8%	37	2.0%	1.8%
反対	23	2.3%	19	1.0%	1.3%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

1グループ（ガイド1人あたり）の最大人数を設定する	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	379	37.9%	1103	59.3%	-21.4%
まあ賛成	382	38.2%	499	26.8%	11.4%
どちらともいえない・わからない	211	21.1%	227	12.2%	8.9%
やや反対	13	1.3%	20	1.1%	0.2%
反対	15	1.5%	11	0.6%	0.9%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

- 「1日あたり入山可能人数の制限」、「富士登山全体における事前予約制」、「1グループあたりの最大人数設定」のそれぞれについて、「やや反対」及び「反対」の割合は2~6%程度であり、「賛成」と「まあ賛成」を合わせればいずれの対策についても7割を超えた。
- 3つの対策の中では、「1日あたり入山可能人数の制限」に賛成する人の割合が最も多く、「賛成」及び「まあ賛成」が81.7%となっている。
- 2年前の調査時と比較すると、いずれの対策についても「賛成」の割合が減少しており、その分「まあ賛成」と「どちらともいえない・わからない」の割合が増加している。

■ 人数制限のためのアクセス制限

駐車可能台数を制限する（少なくする）	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	325	32.5%	944	50.8%	-18.3%
まあ賛成	334	33.4%	498	26.8%	6.6%
どちらともいえない・わからない	261	26.1%	332	17.8%	8.3%
やや反対	47	4.7%	60	3.2%	1.5%
反対	33	3.3%	26	1.4%	1.9%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

駐車場を事前予約制にする	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	370	37.0%	999	53.7%	-16.7%
まあ賛成	334	33.4%	481	25.9%	7.5%
どちらともいえない・わからない	225	22.5%	303	16.3%	6.2%
やや反対	50	5.0%	51	2.7%	2.3%
反対	21	2.1%	26	1.4%	0.7%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

5合目までの通行料金や駐車場料金を値上げする	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	164	16.4%	437	23.5%	-7.1%
まあ賛成	161	16.1%	281	15.1%	1.0%
どちらともいえない・わからない	297	29.7%	597	32.1%	-2.4%
やや反対	159	15.9%	304	16.3%	-0.4%
反対	219	21.9%	241	13.0%	8.9%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

5合目行きシャトルバスやタクシーの夜間運行を制限する	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	236	23.6%	720	38.7%	-15.1%
まあ賛成	294	29.4%	552	29.7%	-0.3%
どちらともいえない・わからない	343	34.3%	473	25.4%	8.9%
やや反対	71	7.1%	65	3.5%	3.6%
反対	56	5.6%	50	2.7%	2.9%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

- 「駐車可能台数の制限」と「駐車場の事前予約制」については「賛成」側の割合が多く、「賛成」と「まあ賛成」を合わせた割合もいずれの対策でも6割を超えている。
- 「五合目までの通行料金や駐車場料金の値上げ」と「五合目行きシャトルバスやタクシーの夜間運行の制限」については「どちらともいえない・わからない」の割合が最も高く、夜間運行制限については「賛成」と「まあ賛成」を合わせた割合が過半数（53.0%）を占めるものの、通行料金や駐車場料金の値上げについては「やや反対」と「反対」を合わせた割合（37.8%）が「賛成」と「まあ賛成」を合わせた割合（32.5%）を上回った。

- 2年前の調査時と比較すると、4つの対策いずれにおいても「賛成」の割合が減少しており、「駐車可能台数の制限」、「駐車場の事前予約制」、「五合目行きシャトルバスやタクシーの夜間運行の制限」については10ポイント以上の減少となっている。

■ 利用形態制限

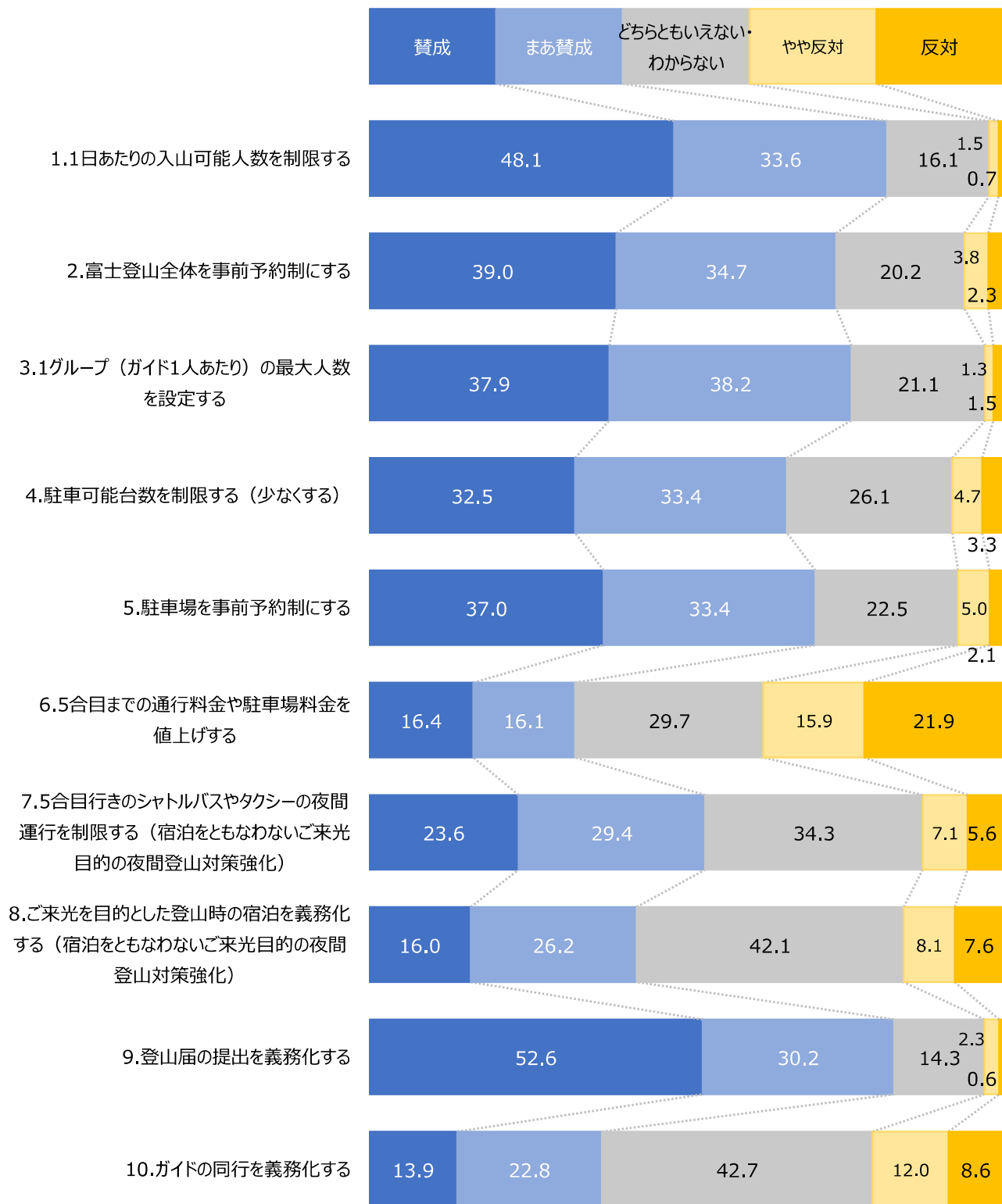
ご来光を目的とした登山時の宿泊を義務化する	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	160	16.0%	607	32.6%	-16.6%
まあ賛成	262	26.2%	469	25.2%	1.0%
どちらともいえない・わからない	421	42.1%	615	33.1%	9.0%
やや反対	81	8.1%	108	5.8%	2.3%
反対	76	7.6%	61	3.3%	4.3%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

登山届の提出を義務化する	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	526	52.6%	1147	61.7%	-9.1%
まあ賛成	302	30.2%	436	23.4%	6.8%
どちらともいえない・わからない	143	14.3%	219	11.8%	2.5%
やや反対	23	2.3%	37	2.0%	0.3%
反対	6	0.6%	21	1.1%	-0.5%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

ガイドの同行を義務化する	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
賛成	139	13.9%	427	23.0%	-9.1%
まあ賛成	228	22.8%	437	23.5%	-0.7%
どちらともいえない・わからない	427	42.7%	730	39.2%	3.5%
やや反対	120	12.0%	158	8.5%	3.5%
反対	86	8.6%	108	5.8%	2.8%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

- 「登山届の義務化」については「賛成」が過半数（52.6%）となったものの、「ご来光を目的とした登山時の宿泊義務化」と「ガイドの同行の義務化」については「どちらともいえない・わからない」の割合が最も高く約4割を占める結果となった。
- 宿泊義務化とガイド同行の義務化は「反対」と「やや反対」の回答も一定割合でみられた。
- 上記3つの対策について、2年前の調査時と比較すると「賛成」及び「まあ賛成」の割合が、「登山時の宿泊の義務化」は15.6ポイント減、「登山届の提出の義務化」は2.3ポイント減、「ガイドの同行の義務化」は9.8ポイント減となり、いずれも減少した。特に宿泊の義務化については、大きな減少となっている。

図表 富士登山における今後の対策



c) 登山経験

■ 登山経験（富士山以外を含む）

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
登山したことはない	156	15.6%	390	21.0%	-5.4%
初心者（登山したことはある）	595	59.5%	959	51.6%	7.9%
2～3年	68	6.8%	204	11.0%	-4.2%
4～9年	51	5.1%	129	6.9%	-1.8%
10年以上	130	13.0%	178	9.6%	3.4%
計	1000	100.0%	1860	100.0%	

- ・ 「初心者」が最も多く、約6割を占めていた。2年前の調査時と比較すると若干初心者の割合が増えている。
- ・ 次いで、「登山したことはない（15.6%）」、「10年以上（13.0%）」となっており、「初心者」と合わせて比較的登山経験の少ない層の回答が多くなっている。

■ 登山経験（富士山） ※ 富士登山経験者（500人）のみを対象

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
1回	352	70.4%	702	75.5%	-5.1%
2～3回	99	19.8%	143	15.4%	4.4%
4～9回	30	6.0%	70	7.5%	-1.5%
10～19回	12	2.4%	11	1.2%	1.2%
20回以上	7	1.4%	4	0.4%	1.0%
計	500	100.0%	930	100.0%	

- ・ 回答者の中で富士登山経験者に登山回数を尋ねたところ、「1回」が最も多く約7割（70.4%）となっており、登山回数が多くなるごとに割合は少なくなっている。

■ 山小屋宿泊経験（富士山） ※ 富士登山経験者（500人）のみを対象

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
なし	318	63.6%	667	71.7%	-8.1%
あり	182	36.4%	263	28.3%	8.1%
計	500	100.0%	930	100.0%	

- 回答者の中で富士登山経験者に山小屋宿泊経験を尋ねたところ、「なし」が63.6%、「あり」が36.4%で、宿泊経験なしの人が多かった。

■ ご来光経験（富士山） ※ 富士登山経験者（500人）のみを対象

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
見たことがある	188	37.6%	305.0	32.8%	4.8%
見たことはない	312	62.4%	625.0	67.2%	-4.8%
計	500	100.0%	930.0	100.0%	

- 回答者の中で富士登山経験者にご来光経験を尋ねたところ、「見たことはない」が62.4%、「見たことがある」が37.6%で、ご来光経験なしの人が多かった。

オ 外国人聴き取り調査（2022年開山期）

各五合目登山口では、2022年の開山期において外国人案内人（静岡県：富士山ナビゲーター、山梨県：通訳案内士会）が外国人登山者を対象に、コロナの影響で富士登山に関連して困ったことがなかったか等について無作為にヒアリングを行った。

- ・ マスク着用などの制限が煩わしい、コロナへの感染リスクをなるべく下げたい、予約制となっていることを知らなかった、コロナの影響で収入が減っている等の理由から、山小屋へ宿泊せずに富士登山を行うといった声が多く聞かれた。
- ・ 登山は屋外での活動であることや、ワクチンを接種していること、そもそもの認識としてコロナへの感染リスクはあまり気にならないという声も聞かれた。一部では、日本国内及び富士山におけるコロナ感染対策（主にマスク）について、厳しすぎるといった不満の声も聞かれた。
- ・ 登山者数については、人が少なくて登りやすかった、山小屋が混んでいなくてよかった等の意見も聞かれた。
- ・ 米軍キャンプ関係者から、以前は富士登山ツアーがもっと多くあったが、今夏については減っているという情報が得られた。
- ・ コロナ下において富士登山を控えていたが、ようやく登ることができたといった声があった。

※ 2022年の富士登山者における外国人は、海外からの旅行者数全体が限られているため、主に国内在住の外国人であったと推測される。

カ 登山者アンケート

山梨県富士山科学研究所では、2021年9月5日（日）～9月8日（水）の4日間、富士スバルライン（吉田口）五合目において、下山者が多い午前8時～午後2時を中心に、対面でのアンケート調査を実施した。調査員は、登山道から出てきた下山者に対して無作為で声掛けをして、アンケート調査への協力を依頼した。回答者がアンケートを記入し終えたら、登山者のタイプに関係なく、次に登山道から出てきた人に声をかけて協力を依頼し、計309人からの回答を得た。

【調査結果】

■ 感染症への不安感について

- 富士山の登山者に対し、登山に伴う感染症のリスクについて、登山前に感じていた不安度を5段階（とても不安だった～全く不安ではなかった）で尋ねた。また、実際に富士山の登山中に、コロナウイルスへの感染に不安を感じた場面はあったかを尋ねた。
- その結果、登山前に感染症について不安を抱いていた人（「とても不安だった、やや不安だった」と回答した人）は、無回答を除いた303人中139人（45.9%）であった。また、登山中に実際に不安を感じた人は、全体の40.6%であった。特に、登山前に不安を抱いていた139人に着目すると、実際に登山中に不安を感じた人は88人であり、51人は元々不安を抱いていたものの、実際には不安を感じずに登山ができたと考えられる。登山客数の減少や山小屋等での感染症対策によって不安を払拭できた登山者がいたことが推察される。
- 一方で、登山中に感染症の不安を感じる場面があったと回答した人に、どこで感じたかをたずねたところ、山小屋（「山小屋の中でマスクをしていない」「大部屋で他の登山者との距離が近い」等）と、登山中（「ご来光前の山頂付近の混雑」「登山中のマスク非着用」等）での場面が挙げられた。
- 登山前に感染症について不安を抱いていた139人について、山小屋での宿泊の影響を検討すると、山小屋に宿泊した122人のうち81人（68.4%）は不安を感じていたが、41人（31.6%）は不安なく過ごせていた。ただし、山小屋に宿泊をしていない人のうち不安を感じずに過ごせた人は58.8%（17人中10人）であり、感染症への不安を感じる場面がより少ないことがうかがわれる。
- 山小屋ごとの感染症対策の違いや、宿泊した部屋のスタイル（大部屋または個室等）によって不安の感じ方は異なることが推察されるが、今回のデータでは山小屋での過ごし方の詳細までは不明である。

■ 登山者数に関する意向について

- 「今年の登山者数は例年の半数ほど」としたうえで、今年の登山者数についての登山者の意向を尋ねた。結果は「今回の登山者数は適度であった」という回答は292人中248人（84.9%）であった。
- なお、調査を実施した日の吉田ルートの登山者数は、環境省設置の赤外線カウントデータによると、9月5日（日）が1,651人、6日（月）922人、7日（火）1,223人、8日（水）785人であった。2021年の開山期間における吉田ルートの1日の登山者数平均は、平日が602人、土日祝日が1,081人であり、コロナ前の2019年の平日1,746人、土日祝日2,848人という状況と比べると2021年の登山者数は大幅に減少している。

出典：山梨県富士山科学研究所

ii) 調査の総括

【コロナによる山小屋利用者や登山者の変化】

・ 山小屋アンケート

- コロナ対応のために、平均宿泊定員数を 153 人 [2019 年] →75 人 [2021 年] と、概ね定員を半減させて営業を行った。
- 平均総宿泊者数は、3,805 人 [2019 年] →1,195 人 [2021 年] と 3 分の 1 以下となった。また、2019 年から 2021 年の宿泊者数の変化について選択肢で尋ねた質問においても約半数 (51.7%) が「7~8 割減った」とする回答している。
- 山小屋利用者のタイプ別には、「外国人」が皆減となった他、「ひとり」以外のタイプは「とても減った」が最も多く、「増えた」とする回答はなかった。一方で「ひとり」については、「とても減った」の回答が最も多かったものの (50.0%)、「増えた」とする回答も 13.3% あった。

・ 山小屋ヒアリング (各登山道の組合・団体及び一部事業者)

- 上記アンケート結果と同じ内容が確認できた他、コロナ以外に天候不順も利用者減少の一因となったことを挙げる声が聞かれた。

・ 登山ガイドヒアリング

- 登山口や時期による違いはあるものの、各登山ガイドヒアリング (各登山道の組合・団体及び一部事業者) では、団体ツアー及び個人ツアーともに 2021 年は利用者が減少し、要請・制限の状況によっては利用者が減少し、登山ガイドの利用が無かった日も確認された。

・ 富士登山意識調査

- コロナが感染拡大傾向にあったとしても、自粛要請等が出てなければ、65.5%が希望する登山形態あるいは登山形態を変えて「富士登山をしたい」と回答した。
- 2020 年の調査時から登山希望者は 16.9 ポイント増加している。
- 登山形態を変えたい場合の内容として「登山日の変更」が第 1 位であることは 2020 年調査時と同様であるが、「宿泊を伴わない行程に変更する」は 2020 年時点の第 3 位 (29.2%) から第 2 位 (41.9%) に 12.7 ポイント上昇した。

【利用者に対するコロナ対応の状況】

- 県基準・ガイドラインを、「徹底できた」が 38.9%、「概ね徹底できた」が 55.6%と、ほとんどの山小屋で県基準・ガイドラインが概ね遵守されていた状況が確認できている (回答数 18 軒)。また、一部の山小屋では、大型の扇風機やエアコンプレッサー、空気清浄・殺菌装置等を独自に取り入れる工夫を行っていた。
- 対応が難しかったものとして、それぞれ多くはないものの、黙食、正確な体温測定、酒類の販売・持込禁止が挙げられた。また、山小屋内での対応ではないが、弾丸登山の自粛呼びかけがしづらかったと挙げるところが複数あった。

• 登山ガイドヒアリング

- 高地での登山を行う中でのマスク着用は登山ガイドであっても息苦しいこと、登山時の装備や天候等の条件によってマスクの頻繁な着脱はかえって衛生面でリスクになること等から歩行時以外（渋滞時、会話の際等）においてマスクを着用するルールについては遵守が難しかったことが分かった。
- また、登山時のソーシャルディスタンス（2mの間隔をとって歩く等）確保についても、ツアー団体内で目が行き届かなくなる、声が届かなくなる等のリスクもあり、特に人が集中する時間帯・箇所においては遵守が難しかったとの声が聞かれた。
- これらの状況に対しては、各ガイドが山小屋に入る際はマスクを着用してもらう、登山時の列を互い違いの2列にする等、各現場で工夫をしながら対応していた。

• 富士登山意識調査

- 仮に富士登山をする際に不安なこと・対策を望むこととして、多い順に「トイレの衛生環境（60.5%）」「山小屋での密集・混雑（54.5%）」「登山道での密集・混雑（44.5%）」が挙がっており、上位に挙がる項目は2020年調査時点と変わっていない。

• 山梨県富士山科学研究所（登山者アンケート）

- 登山前に感染症について不安を感じていた人は全体の45.9%（無回答を除く）で、のうち実際に登山中に不安を感じた人は40.6%だった。一方で、登山中に感染症の不安を感じる場面があったと回答した人に、どこで感じたかを尋ねたところ、山小屋（「山小屋の中でマスクをしていない」「大部屋で他の登山者との距離が近い」等）と、登山中（「ご来光前の山頂付近の混雑」「登山中のマスク非着用」等）での場面が挙げられた。

• 外国人登山者への聴き取り調査

- 対象が一部外国人に限られる点には、留意が必要だが、登山が屋外活動であること等を理由に感染リスクが低いと考える回答や、富士山におけるコロナ感染対策が厳しいと感じる回答、マスク着用が求められることが煩わしいことを理由に山小屋への宿泊をしないとする回答があった。

【経営面のコロナ対応の状況】

• 山小屋へのアンケート

- 従業員数の削減（「3~4割減らした」が最多で38.7%）や宿泊料金の値上げ（「1~2割上げた」が最多で55.2%）などの対応をしていたことが分かった。
- また、ヒアリングからは、宿泊定員を抑えた割合（平均で約半減）に対して、山小屋の維持に必要な基本人数を揃えるために、同程度までの従業員の削減はできないことを挙げる山小屋が見られた。

• 登山ガイドヒアリング

- 現状ではガイド料金は同程度での設定がなされていることが多く、値上げを行ったケースは今回の調査では聞かれなかったが、一部では、経営面から今後の値上げの必要性や団体以外の個人利用へのシフトの必要性を挙げる声が聞かれた。

【コロナ対応で活用した行政からの支援に対する意見】

・ 山小屋へのアンケート

- 両県における支援策（静岡県「富士山安心・安全対策事業」、山梨県「新しい生活様式推進山小屋施設支援事業」）や、持続化給付金、その他の自治体による貸付や給付金を活用する山小屋が多く見られた。
- 一部の山小屋からは、書類作成が煩雑であった点、消毒液等の消耗品が支援の対象から外れた点の不便さを指摘する声も挙がった。

【今後の方向性について】

・ 山小屋へのアンケート

- コロナを契機とした経営方針の見直しについて、**38.7%**が宿泊定員を「変更しない」、**29.0%**が「未定」と回答しており、「増やす」または「減らす」方針を現時点で決めている山小屋は**4分の1以下（22.6%）**となっている。
- 宿泊料金については「変更しない」が**41.9%**、「未定」が**19.4%**で合わせて約**6割**であるが、「値上げする」とした山小屋も**35.5%**いた。
- 今後解決すべき富士登山が抱える課題としては、「弾丸登山や軽装備など登山知識の不足（77.4%）」「登山マナー（54.8%）」「週末やお盆時期の混雑（35.5%）」とコロナ前から指摘をされてきた課題を引き続き挙げる声が多かった。

・ 登山ガイドヒアリング

- 現場で感じている懸念点として、弾丸登山が引き続きみられること、一部の外国人グループでゴミの放置等のマナー不足が挙げられた。

・ 富士登山意識調査

- 富士登山における今後の対策案を示して「賛成」か「反対」を尋ねた結果を得点化したところ、賛成側の意向が高かった対策案として、順に「登山届を義務化する（1.32点）」「1日当たりの入山可能人数を制限する（1.27点）」「1グループ（ガイド1人あたり）の最大人数を設定する（1.10点）」であった。
- 一方で、賛成側の意向が低かった対策案は、順に「五合目までの通行料金や駐車場料金を値上げする（▲0.11点）」「ガイドの同行を義務化する（0.21点）」「ご来光を目的とした登山時の宿泊を義務化する（0.35点）」であった。
- また、「五合目行きのシャトルバスやタクシーの夜間運行を制限する」「ご来光を目的とした登山時の宿泊を義務化する」「ガイドの同行を義務化する」においては、回答のうち選択率が最も高いのは「どちらともいえない・わからない」であった。
- なお、いずれの対策案についても2020年調査時からやや賛成側の意向が減少し、各対策案で**0.11点から0.43点の減少**であった。

※ 得点化は、「賛成」を2点、「反対」を▲2点、その間の回答を1点刻みの得点として、回答者の平均得点を算出した（全員が「賛成」だと2点となる計算）。

・ 山梨県富士山科学研究所（登山者アンケート）

- 「今年の登山者数は例年の半数ほど」とした上で、今年の登山者数についての登山者の意向を尋ねた結果、「今回の登山者数は適度であった」という回答は**292人中248人（84.9%）**であった。

※ 調査日4日間（2021年9/5～9/8日）の吉田口登山者数（環境省設置赤外線カウントデータ）は各1,651人、922人、1,223人、785人。

(2) 自然的影響

i) 調査結果

ア 山小屋調査（山小屋ヒアリング）

- ・ コロナの感染拡大に伴う閉山、あるいは登山者数の大幅な減少による自然、登山道・地表等の地質面での影響・変化は感じていない。（静岡・山梨）

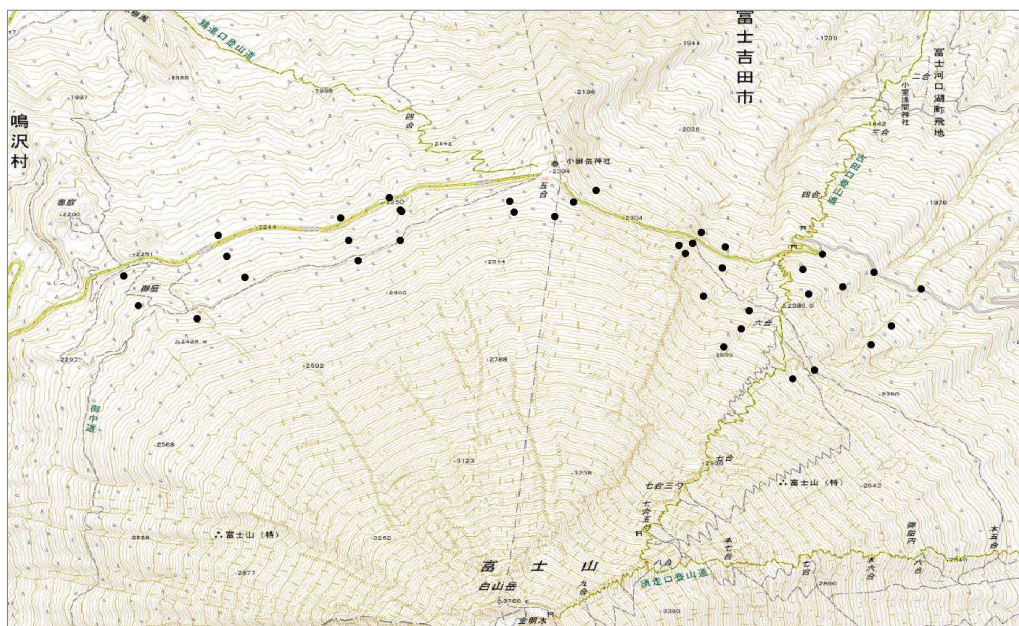
イ 登山ガイド調査（登山ガイドヒアリング）

- ・ コロナの影響による閉山あるいは登山者数の大幅な減少による自然、登山道・地表等の地質面での影響・変化は感じていない。（静岡・山梨）
- ・ 気候変動による天候不順は 15 年程前に比べると多くなったと感じる。特にここ 3 年ほど荒れる日が多い。気候変動でベストな季節が少しずつ来ており、9 月の方が良いかもしれない。そのようなアドバイスもしている。（山梨）
- ・ 最近では天候不順で通行止めが 2 回あった。富士山に何本もの川ができた。温暖化による影響なのか不明だが、天候不順は確実に多くなっている。（静岡）

ウ 山梨県富士山科学研究所による調査（自動撮影カメラを用いた調査）

- ・ 山梨県富士山科学研究所では、閉山により五合目から六合目周辺の中大型哺乳類の出現頻度に時空間変化が生じたかを明らかにするため、山梨県側で自動撮影カメラ（合計 37 地点）を用いた調査を実施した。

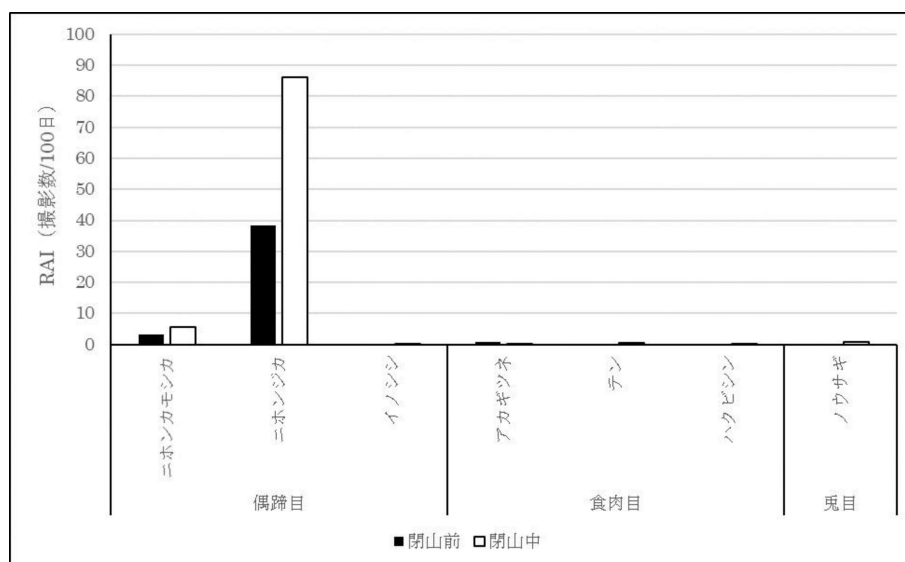
図 自動撮影カメラの設置地点（●：合計 37 地点）



【調査結果】

- 閉山前（2019年7・8月）には5種（ニホンカモシカ、ニホンジカ、アカギツネ、テン、ノウサギ）が確認されたのに対し、閉山中（2020年7・8月）には5種に加えて2種（イノシシ、ハクビシン）の合計7種が確認された。
- 両期間（閉山前・閉山中）を通じた撮影頻度指数（RAI：100日当たりの撮影数）はシカ（62.3）、カモシカ（4.5）、キツネ（0.6）、ノウサギ（0.4）、テン（0.4）、ハクビシン（0.1）、イノシシ（0.05）の順に高かった。
- 期間内で撮影頻度に差があるかを種ごとに解析した結果、シカのみ閉山前から閉山中に撮影頻度が有意に増加した。ただし、閉山が原因ではなく、単純にシカ個体群が増加した可能性がある。また、閉山前に比べ閉山中に登山道もしくは車道付近への出没頻度が上昇したかを種ごとに検討した結果、そのような傾向は見られなかった。

図 各動物種の撮影頻度指数（RAI）の閉山前（2019年7・8月）と閉山中（2020年7・8月）の比較



出典：山梨県富士山科学研究所

ii) 調査の総括

【富士山の植生等の自然、登山道・地表等の地質面で感じられた変化】

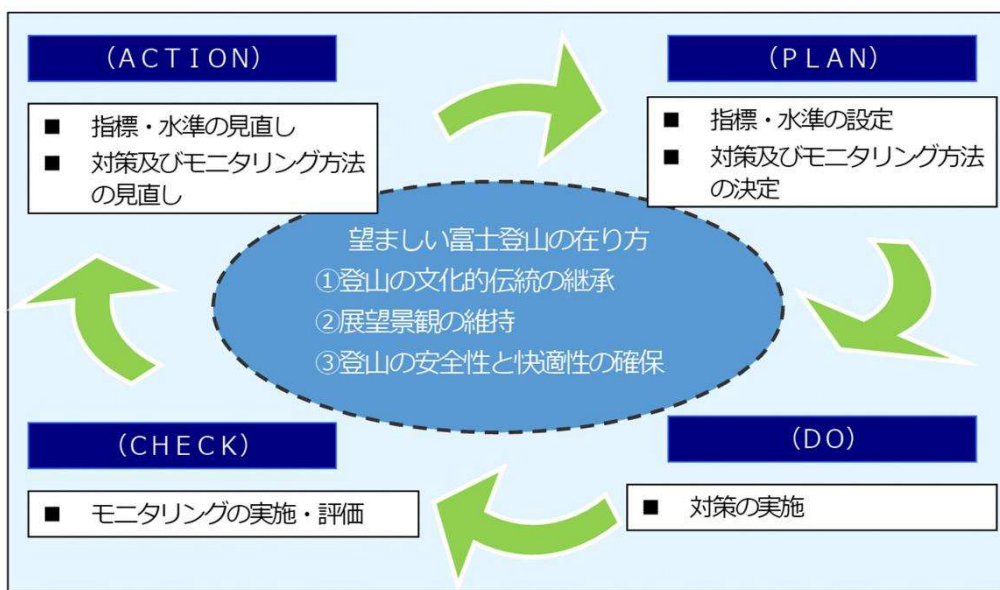
- 山小屋調査**及び**登山ガイド調査**では、コロナの感染拡大に伴う閉山、あるいは登山者数の大幅な減少によって、富士山の植生等の自然、登山道・地表等の地質面での影響・変化は確認されなかった。
- 山梨県富士山科学研究所**による五合目から六合目周辺の中大型哺乳類の出現頻度に関する調査では、コロナの感染拡大に伴う閉山による個体群への影響は確認されなかった。

4. コロナと来訪者管理戦略

(1) 来訪者管理戦略の概略

- ・ 2013年6月、第37回ユネスコ世界遺産委員会は、「富士山ー信仰の対象と芸術の源泉」の世界遺産一覧表記載に係る決議において、6つの勧告を付議し、その中において、上方の登山道の収容力を研究し、その成果に基づき来訪者管理戦略を策定することが求められた。
- ・ 2016年1月、日本政府は、ユネスコ世界遺産センターに対して、来訪者管理戦略等の策定状況等を示した保全状況報告書を提出した。
- ・ 来訪者管理戦略では、目標として定めた「望ましい富士登山の在り方」を実現するために、PDCAサイクルを利用した管理システムを適切に運用していくことや、2015年から2017年までの3年間、夏季における五合目以上の登山者に関する調査研究を継続して実施し、2018年7月までに、登山者数を含めた複数の指標等を設定した上で、来訪者管理の着実な前進・改善を図ることを示した。

図表 富士山の来訪者管理の仕組み



出典：富士山世界文化遺産協議会「「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた来訪者管理計画」

(2) 指標・水準の設定・評価

- ・ 来訪者管理戦略では、ユネスコ世界遺産センター発行の「世界遺産における来訪者管理～世界遺産管理マニュアル」や海外の国立公園の先進事例を参考として、目標や目的を設定し、指標を設けて、結果をモニタリングすることが示された。
- ・ 具体的には、多様な登山形態の下で登山を行う登山者が、富士山の顕著な普遍的価値の側面を表す「神聖さ」・「美しさ」の双方の性質を実感できることが重要であるとの観点から、「上方の登山道の収容力」に着目しつつ、来訪者管理戦略の目標として、以下の「望ましい富士登山の在り方」が定められた。
 - ① 十七世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承
 - ・ 頂上付近で御来光を拝む場合には、途中の山小屋で宿泊・休憩していること
 - ・ 特定された山麓の巡礼路・登山道からの登山が行われていること
 - ・ 山麓の神社・霊地等と登山道とのつながりが認知・理解されていること
 - ② 登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持
 - ・ 山小屋・防災関連の施設等の登山者のための施設が自然と調和していること
 - ・ 浸食・植生等の変化による展望景観への影響が抑制されていること
 - ③ 登山の安全性・快適性の確保
 - ・ 登山装備・登山マナー等が理解されていること
 - ・ 過剰な登山者数による混雑・危険・不満を感じない登山ができること
- ・ その上で、「望ましい富士登山の在り方」を実現するために、2015年から2017年の3年間、「上方の登山道の収容力」を中心とした調査・研究を実施し、2018年7月までに、登山道ごとの1日当たりの登山者数を含め、①「登山の文化的伝統の継承」、②「展望景観の維持」、③「登山の安全性と快適性の確保」の3つの視点に基づく複数の指標と指標ごとの水準を設定することが示された。
- ・ 来訪者管理戦略に基づき策定した来訪者管理計画（2018年3月）では、以下の考え方に基いて指標・水準の選定・設定を行った。

[指標]

- ・ 「望ましい富士登山の在り方」の実現につながり、変化を容易に確認できること。
- ・ モニタリングに際し、特別な機材や技術、過度な経費を必要としないこと。
- ・ 「望ましい富士登山の在り方」の3つの視点の区分ごとに1つ以上選定する。

[水準]

- ・ 2019年を短期目標として、現状値から改善が図れること。
(定量的な指標は概ね10%程度の改善を目安とする。)
- ・ 定量的な指標は出来る限り数値化し、定性的な指標は、無理に数値化しない。
- ・ なお、指標は2015年を起点として、概ね5年毎に、施策及び指標の評価・見直しを行い、来訪者管理の着実な前進・改善を図ることが示されている。

図表 「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた指標（水準・実績）

望ましい富士登山の在り方		指 標	登山口	水 準 (目標値)	実 績		
視 点	区 分				コ ロ ナ 前	コ ロ ナ 後	
					2019年	2021年	2022年
十七世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承	頂上付近で御来光を拝む場合には、途中の山小屋で宿泊・休憩していること	伝統的な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休息してから山頂で御来光を拝む登山者の割合	全体	80%以上	77.3%	80.9%	88.8%
	特定された山麓の巡礼路・登山道からの登山が行われていること	古くからの巡礼路としてルートが特定されている吉田口登山道における山麓からの登山者の割合	吉田口	15%以上	9.3%	5.6%	7.5%
	山麓の神社・霊地等と登山道とのつながりが認知・理解されていること	山麓の神社や湖などを巡ったのちに富士登山をする文化的伝統を知っている登山者の割合	全体	50%以上	43.1%	41.9%	42.5%
		富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割合	全体	90%以上	83.2%	88.3%	86.6%
登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持	山小屋・防災関連の施設等の登山者のための施設が自然と調和していること	自然と調和しない人工構造物による登山道沿いの景観阻害	全体	非調和的要素が予見又は発見されない	なし	なし	なし
	浸食・植生等の変化による展望景観への影響が抑制されていること	五合目以上における登山道の浸食や植生等の変化による展望景観の変化	全体	負の影響が予見又は確認されない	なし	なし	なし
登山の安全性・快適性の確保	登山装備・登山マナー等が理解されていること	登山道や山頂付近でゴミをよく見かけた登山者の割合	全体	15%以下	22.4%	17.6%	14.0%
		人的要因による文化財き損届の件数	全体	0件	0件	0件	0件
	過剰な登山者数による混雑・危険・不満を感じない登山ができること	吉田口から登山し、誤って須走口に下山した人の割合（須走口五合目富士山ナビゲーター対応実績）	吉田口 須走口	0.4%以下	0.61% (936人)	0.49% (266人)	0.43% (404人)
		山小屋やトイレなどの登山者への支援施設に不満を感じた登山者の割合	全体	15%以下	21.4%	10.0%	12.5%
		夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数／日※を ※ 吉田口：4,000人／日 富士宮口：2,000人／日	吉田口	3日以下	6日	0日	0日
			富士宮口	2日以下	3日	0日	0日

（出典：第19回富士山世界文化遺産学術委員会資料）

(3) 来訪者管理戦略に係る近年の動向

- ・ 指標・水準の進捗状況を測定・評価するために、コロナの感染拡大のために開山しなかった 2020 年を除いて毎年、来訪者管理モニタリング調査を実施してきた。
- ・ 来訪者管理戦略に関しては、2020 年が指標及び水準の定期見直しのタイミングであったが、各年の来訪者管理モニタリング調査の結果及び周辺環境変化等を踏まえて、同時点で来訪者管理戦略の策定時点における「望ましい富士登山の在り方」が変化しているとは考えづらいことから、指標・水準については修正を行わず、継続的にモニタリングを行っていくこととなった。

(4) コロナが来訪者管理戦略の「望ましい富士登山の在り方」実現に向けた指標・水準に与えた影響

- ・ 十七世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承に関する指標群については、モニタリング調査結果ではコロナ前と比較すると「伝統的な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休息してから山頂で御来光を拝む登山者」の割合は、増加傾向にあるが、今回の調査結果からだけではコロナが指標に明確な影響を与えたとは言い切れない。
- ・ 登山道及び山頂付近の良好な展望景観に関する指標群については、コロナ前と同様、2021・22 年のモニタリング調査結果も景観阻害や展望景観の負の影響はなく、この結果は、今回の調査結果とも一致しており、コロナによる、特に閉山や登山者数の大幅な減少による影響は無かったと推察される。
- ・ 登山の安全性・快適性の確保に関する指標群については、モニタリング調査結果をみると「登山道や山頂付近でゴミをよく見かけた登山者」及び「山小屋やトイレなどの登山者への支援施設に不満を感じた登山者」の割合は、2019 年と比較して 2021・22 年は大幅に減少した。他要因による影響も否定はできないが、コロナによって登山者数が大幅に減少したことの影響があったことが推察される。また、「夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数/日を超えた日数」も吉田口、富士宮口双方において 2021・22 年ともに「0 日」となっており、全体の登山者数が減少したこと等が要因の一つとして想定される。

(5) コロナによる影響を踏まえた考察

【コロナによる山小屋利用者や登山者の変化】

・ 山小屋調査

- 2021年の山小屋宿泊者数は大きく減少しており、コロナ前の概ね3分の1に落ち込んでいた。
- 各山小屋の宿泊定員は平均で概ね50%に抑えられており、定員に対する稼働率としてはコロナ以前より低下した山小屋が多くあったことが推察される。
- 山小屋利用者のタイプは、外国人登山者が激減したほか、ガイドツアー、若者、中高年、家族連れなどいずれも大きく減少したが、単独（ひとり）登山者については「増えた」と回答した山小屋も13.3%あった。

・ 富士登山意識調査

- 富士登山に関心のある層は行動制限・要請がなければ、仮に感染拡大傾向にあっても約3分の2は富士登山を行いたい意向を持っていることがわかった。2020年の最初の拡大期からコロナに対する不安はやや薄れ、大きな方向性としては登山者は回復に向かうことが推測される。
- 登山者の傾向として、引き続き混雑をできるだけ避けながら登山を行うことも想定され、混雑回避策の一つとして日帰り登山が増える可能性がある点には留意が必要である。

・ 山梨県富士山科学研究所（富士登山者アンケート）

- 登山前に不安を感じていた登山者のうち36.7%は、実際は不安を感じずに登山ができていた。このことから、登山者の減少や山小屋などでの感染症対策によって不安が払拭されていたことが推察される。

【利用者に対するコロナ対応の状況】

・ 山小屋アンケート調査

- 94.4%の山小屋がコロナ対応を「徹底できた」「概ね徹底できた」と回答した。
- 2023年以降は海外在住の外国人の登山者も回復することが想定されるため、実際に登山者対応及び施設・設備面での対応を行う山小屋事業者の意見を踏まえつつ、国内外の最新の状況変化も踏まえた対応方針の変更が求められる。

・ 登山ガイド調査

- 高地や登山中におけるマスク着用については、たとえ休憩時や会話時に限定したとしても遵守が難しい状況があった。
- 2023年以降は、これまでのコロナ下における各ガイド等が運用していたルールを参考にしながら、健康リスク・事故リスクにも改めて配慮した対応方針を示していく必要がある。

- ・ **富士登山意識調査**

- 登山者が不安なこと・対策を望むこととしては、2020年、2022年の調査いずれでもトイレの衛生面と山小屋・登山道の密集・混雑を挙げており、安全・快適に富士登山をしてもらうための重要な対策項目として挙げられる。

【経営面のコロナ対応の状況】

- ・ **山小屋アンケート調査**

- 2021年の山小屋利用者数は、平均で3分の1以下に減少した。しかし、多くの山小屋では人件費に直結する従業員数は半減まではできておらず、収入増につながる宿泊料金の値上げは2割以内に留めた山小屋が多いことを総合的に勘案すると、多くの山小屋においてコロナが経営を圧迫する方向に影響したことが推察される。

【コロナ対応で活用した行政からの支援に対する意見】

- ・ **山小屋アンケート調査**

- 多くの山小屋で行政からの支援が活用されていた。今後も、登山道の維持・補修や悪天候時などの緊急避難などの山小屋の公益的機能を継続させる意味でも、山小屋の経営状況を注視し、時宜に応じて引き続き支援・協力を行っていくことが求められる。

【今後の方向性について】

- ・ **山小屋調査**

- 今後の山小屋の宿泊定員及び宿泊料金については「未定」を含めて各山小屋の意向は分かれており、今後の動向について注視していく必要がある。

- ・ **富士登山意識調査**

- 登山届の義務化や1日当たりの入山可能人数の制限、ガイド1人当たりのグループ人数の制限等について、富士登山に関心のある層から比較的賛成側の意向が高かった。
 - ただし、いずれの対策案についても2020年時点からやや賛成側の意向が減少しており、今後さらにどう変化するのか留意する必要がある。
 - 富士登山における管理対策の検討・実施にあたっては、有識者の意見を諮りつつ、両県、環境省、文化庁、林野庁をはじめとした管理に関わる各団体・組織、山小屋・ガイド・交通関係等の事業者が綿密な協議を図ったうえで決定していくことが求められる。
-

(6) 来訪者管理戦略の今後の方針

- ・ 「コロナによる影響」に関しては、これまでにはない形で登山者数や山小屋利用者数が大幅に減少し、山小屋や登山ガイドなど富士登山に係る事業者に大きな経済的影響を与えた一方で、来訪者（登山者）の満足度の向上やごみの減少など、登山者数や登山道、施設・設備の混雑との関連性が高い一部の指標値が改善した。
- ・ 来訪者（登山者）からは、コロナ以前よりも低い水準の登山者数を望む声や、一部の山小屋及び登山ガイドにおいても登山の在り方や登山者数について改めて検討することが必要ではないかとの声が挙がっている。
- ・ また、第 19 回富士山世界文化遺産学術委員会（2022.11.15 開催）において、御来光目的で事前に十分な休息を取らず夜通し登山を行う、いわゆる「弾丸登山」については、登山者の健康面や体力面、あるいは本来の文化的伝統と照らし合わせて考えた際の望ましい登山方法について様々な意見が出ている。
- ・ この他、来訪者管理戦略で定めた「望ましい富士登山の在り方」に関しては、「コロナによる影響」以外にも「富士山登山鉄道構想」や「天候不順日の増加」など、戦略策定時点とは異なる新たな要因も生じてきており、今回の調査結果と併せてこうした要因も考慮しながら、見直すことが望まれる。

參考資料

(1) アンケート調査票（山小屋調査）

富士山山小屋における新型コロナウイルス感染症影響調査

日ごろより静岡・山梨両県政の推進にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

現在も続く新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、両県経済にもこれまで深刻なダメージを与えており、観光産業への影響も非常に大きく、観光におけるリスクマネジメントの重要性が再認識させられたところです。

こうした状況を踏まえ、富士山世界文化遺産協議会では、特に新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を強く受けた令和3年度の富士登山開山期における、各登山道の五合目以上の山小屋等が受けた経営・営業活動面及びその他対応面での影響を把握することにより、各事業者の現況を把握して今後の施策に活かしてまいりたいと考えております。

つきましては、ご多忙中に恐れ入りますが、アンケートにご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

- ※ 調査票や返信用封筒にお名前（山小屋名を含む）やご住所を記入する必要はありません。
（集計の際に、山小屋のある登山道ごとの集計はさせていただきます）
- ※ 回答はデータに基づいた精緻なものではなく、ご自身の感覚によるもので構いません。
- ※ 1つの山小屋に対して、代表の方1名がご回答ください。
- ※ ご回答いただいた内容は統計的に処理いたしますので、個別に利用されることや特定されることはありません。

調査主体 富士山世界文化遺産協議会 事務局
静岡県富士山世界遺産課
Tel:054-221-3747
山梨県世界遺産富士山課
Tel:055-223-1330
調査票回収先 公益財団法人日本交通公社
Mail:g_kankyoplan@jtb.or.jp

ご記入いただいたアンケート調査票は、同封の返信用封筒に入れ
7月31日（日）までに郵便ポストへ投函してください。

あるいは、

以下のアンケートサイトにアクセスしてご回答ください。



<https://questant.jp/q/yamagoya22-y>

■ 2021（令和3）年の登山者についてお答えください。

【開山期を通じた登山者数】

Q1 コロナ前（2019年）とコロナ後（2021年）における貴山小屋での宿泊者数について教えてください。

区分	1日あたりの宿泊定員数	開山期を通じた総宿泊者数
コロナ前(2019年)	人	人
コロナ後(2021年)	人	人

Q2 貴山小屋を利用した登山者数は、コロナ前（2019年）と比べてどのように変わりましたか。（○は、それぞれ1つ）

宿泊の登山者	① 増えた	② 変わらなかった	③ 1～2割減った	④ 3～4割減った
	⑤ 5～6割減った	⑥ 7～8割減った	⑦ 9割以上減った	
宿泊外の登山者	① 増えた	② 変わらなかった	③ 1～2割減った	④ 3～4割減った
	⑤ 5～6割減った	⑥ 7～8割減った	⑦ 9割以上減った	

【タイプごとの登山者数】

Q3 貴山小屋を利用した以下のタイプの宿泊者は、コロナ前（2019年）とどのように変わりましたか。（○は、それぞれ1つ）

10人以上の登山ガイド付きツアー	① 増えた	② 変わらなかった	③ やや減った	④ とても減った
30代以下の若者	① 増えた	② 変わらなかった	③ やや減った	④ とても減った
60代以上の中高年	① 増えた	② 変わらなかった	③ やや減った	④ とても減った
家族連れグループ	① 増えた	② 変わらなかった	③ やや減った	④ とても減った
外国人グループ	① 増えた	② 変わらなかった	③ やや減った	④ とても減った
単独登山者（一人）	① 増えた	② 変わらなかった	③ やや減った	④ とても減った

■ 2021（令和3）年の登山者に対するコロナ対応についてお答えください。

【基本的な感染対策について】

Q4 新型コロナ対策で策定した「感染症予防対策に係る基準（山梨県）」*の対応状況を教えてください。（○は1つ）

【山梨県】 感染症予防対策に係る基準	① 徹底できた	② 概ね徹底できた	③ あまりできなかった
-----------------------	---------	-----------	-------------

*「感染症予防対策に係る基準（山梨県）」の内容は同封の資料を参照ください。

【上記以外の対応】

Q5 貴山小屋で実施した上記以外の新型コロナ対応の取組があれば教えてください。(自由記述)

--

【対応が難しかった内容】

Q6 取組の中で、小屋内での遵守や登山者に守ってもらうことが難しかったものがあれば教えてください。(自由記述)

--

■ 2021（令和3）年の経営面におけるコロナ対応についてお答えください。

Q7 昨年(2021年)の従業員数はコロナ前(2019年)と比べてどのように変わりましたか。(○は、それぞれ1つ)

従業員数 (パート・アルバイトを含む)	① 増やした	② 変えなかった	③ 1~2割減らした	④ 3~4割減らした
	⑤ 5~6割減らした	⑥ 7~8割減らした	⑦ 9割以上減らした	

Q8 昨年(2021年)の宿泊料金(平均)はコロナ前(2019年)と比べてどのように変わりましたか。(○は、それぞれ1つ)

宿泊料金 (平均)	① 5割以上上げた	② 3~4割上げた	③ 1~2割上げた	④ 変えなかった
	⑤ 1~2割下げた	⑥ 3~4割下げた	⑦ 5割以上下げた	

Q9 2020年から2021年に貴山小屋で利用した国・自治体の支援策を教えてください。(○は、それぞれ1つ)

富士山安心・安全対策事業 (静岡県)	① 利用した	② 検討のみした	③ 利用しなかった	④ 知らなかった
新しい生活様式推進山小屋施設 支援事業(山梨県)	① 利用した	② 検討のみした	③ 利用しなかった	④ 知らなかった
山岳環境保全対策支援事業 (環境省)	① 利用した	② 検討のみした	③ 利用しなかった	④ 知らなかった
持続化給付金	① 利用した	② 検討のみした	③ 利用しなかった	④ 知らなかった
雇用調整助成金	① 利用した	② 検討のみした	③ 利用しなかった	④ 知らなかった
自治体による貸付や給付金	① 利用した	② 検討のみした	③ 利用しなかった	④ 知らなかった

Q10 上記以外で国や県・市等の行政機関から受けた支援策はありましたか。

支援を受けた行政機関	支援を受けた具体的な内容

Q11 国・自治体の支援策に対して、使い勝手の良かった点や不便だった点などがあれば教えてください。(自由記述)

--

Q12 新型コロナを契機とした経営方針の見直しについて教えてください。(〇は、それぞれ1つ)

コロナ収束後、宿泊可能な定員数は コロナ対応後(2021年)の現在と 比べてどのように見直しますか。	① 増やす	② 変更しない	③ 減らす	④ 未定	⑤ その他()
コロナ収束後、宿泊料金は コロナ対応後(2021年)の現在と 比べてどのように見直しますか。	① 値上げする	② 変更しない	③ 値下げする	④ 未定	⑤ その他()

■ **今後の方向性**についてお答えください。

Q13 現在、富士登山が抱える課題として何があると思いますか。該当するものをすべて選んでください。(いくつでも)

① 週末やお盆時期の混雑	⑦ 登山客の満足度の向上
② 遭難等の登山事故	⑧ 弾丸登山や軽装備など登山知識の不足
③ 登山マナー	⑨ 新型コロナ対応
④ 富士山における環境破壊	⑩ 外国人登山者への対応
⑤ 世界的な気候変動による天候不順	⑪ 五合目までの交通アクセス方法
⑥ 登山者への情報提供	⑫ 登山者数の逡減
⑬ その他()	

Q14 Q13で選択していただいた課題を解決するために何が必要と思いますか。(自由記述)

--

Q15 富士登山の今後のあり方に関してご意見があれば自由に記載してください。(自由記述)

--

お忙しい中、調査に御協力いただきまして、誠にありがとうございました。

(1) アンケート調査票（富士登山意識調査）

富士登山に関する意識調査

（実際は、ウェブ画面を通じての調査・回答）

■ スクリーニング調査（調査対象を抽出するための事前調査）

問1 今後の富士登山に興味はありますか。（○は1つ）

1. 新型コロナウイルスの状況にかかわらず、富士登山に興味がある（登りたい、登ってみたい）
2. 新型コロナウイルスの状況にもよるが、富士登山に興味がある（登りたい、登ってみたい）
3. 富士登山に興味がない（登りたくない）

問2 今までに、山頂登頂を目的として富士山に登ったことはありますか。（○は1つ）

1. ある →【複数回答】（吉田ルート 富士宮ルート 須走ルート 御殿場ルート ルートはわからない）
2. ない

問3 【興味がある人のみ】今後、富士山に登るとしたら、不安なこと・対策をとってほしいと思うことはありますか？（○は、いくつでも）

- | | |
|----------------------|--------------------------------|
| 1. 登山道での密集・混雑 | 6. トイレの衛生環境 |
| 2. ご来光時の山頂付近での密集・混雑 | 7. 健康チェック体制 |
| 3. 山小屋での密集・混雑 | 8. 感染者発生時の対応 |
| 4. 登山口までの交通機関での密集・混雑 | 9. その他（ ） |
| 5. 山小屋の衛生環境 | 10. 不安に思うことはない |

問1「1-2：富士登山興味あり」	×	問2「1：富士登山経験者」	→本調査へ
問1「1-2：富士登山興味あり」	×	問2「2：富士登山未経験者」	→本調査へ
問1「3：富士登山興味なし」	×	問2「1：富士登山経験者」	→調査終了
問1「3：富士登山興味なし」	×	問2「2：富士登山未経験者」	→調査終了

■ 本調査

今後の富士登山について

富士山の山小屋・登山道では、宿泊の原則予約制、寝具等の客ごとの交換、社会的距離の確保、パーテーションの設置等の各種コロナ対策を実施しています。

【参考】

今夏（2022年夏）、富士山では、山小屋・登山道において、関係機関が連携して次のような新型コロナウイルス感染症対策を行っています。

(富士登山オフィシャルサイト | 安全・リスク情報 | 感染症対策について)

<http://www.fujisan-climb.jp/risk/covid-19.html>

問4 上記の対策が取られているとして、以下に挙げた新型コロナウイルスの各感染状況における今後の富士登山意向をお答えください。(○は、それぞれ1つ)

	希望する登山形態のまま登りたい	登山形態を変えて登りたい	登りたくない
(1) 自粛要請等は発出されていないが、新型コロナが感染拡大傾向にある	1	2	3
(2) 居住地域で不要不急の往来や外出の自粛要請が発出されている	1	2	3
(3) 居住地域で緊急事態宣言が発出されている	1	2	3

(問4でひとつでも「登山形態を変えて登りたい」と回答した人)

問5 どのように登山形態を変えようと思いますか。(○は、いくつでも) ★コロナの状況別に設定

1. 登山ルートを変更する(混雑がより少ないルートを選択する)	5. 同行者を単独もしくは同居する家族に変更する
2. ご来光を目的としない行程に変更する	6. 同行者の人数を減らす
3. 宿泊を伴わない行程に変更する	7. ガイド付き団体登山ツアーへの参加をやめる
4. 登山日を変更する(混雑がより少ない日を選ぶ)	8. その他()

富士登山における今後の対策について

問6 富士山では、貴重な環境を保全しながら来訪者が安全・快適に登山を楽しめるよう、マイカー規制の実施や保全協力金の導入、混雑予想カレンダーの作成などの様々な対策を行っています。

コロナ禍をふまえた新しい富士登山のあり方を見据え、さらなる安心・安全・快適な富士登山を実現するため、以下の対策案についてのあなたのご意見をお聞かせください。(以下に挙げる対策は、調査・研究段階の案のひとつであり、今後の実施が確定しているものではありません。)

		賛成	まあ賛成	わからない	やや反対	反対
人数制限	① 1日あたりの入山可能人数を制限する	1	2	3	4	5
	② 富士登山全体を事前予約制にする	1	2	3	4	5
	③ 1グループ(ガイド1人あたり)の最大人数を設定する	1	2	3	4	5
人数制限のための	④ 駐車可能台数を制限する(少なくする)	1	2	3	4	5
	⑤ 駐車場を事前予約制にする	1	2	3	4	5

利用形態制限	⑥ 五合目までの通行料金や駐車場料金を値上げする	1	2	3	4	5
	⑦ 五合目行きシャトルバスやタクシーの夜間運行を制限する（宿泊をともなわないご来光目的の夜間登山対策強化）	1	2	3	4	5
	⑧ ご来光を目的とした登山時の宿泊を義務化する（宿泊をともなわないご来光目的の夜間登山対策強化）	1	2	3	4	5
	⑨ 登山届の提出を義務化する	1	2	3	4	5
	⑩ ガイドの同行を義務化する	1	2	3	4	5

（問6でひとつでも「反対」「やや反対」と選択した人）

問7 反対の理由を具体的にご記入ください。（自由記述） **★複数選択した際は項目ごとに自由記入を設定**

問8 その他、安全・安心・快適な富士登山を実現するために必要な対策があれば、具体的にご記入ください。

（自由記入）

あなたご自身について

※性別、年代、居住地（都道府県）、職業は、調査会社から提供される基本属性に含まれる。

問9 あなたの登山経験を教えてください。（○は1つ）

1. 登山したことはない 2. 初心者（登山したことはある） 3. 2～3年 4. 4～9年 5. 10年以上

問10 コロナ禍（2020年3月から現在まで）において、アウトドア活動を行いましたか。（○はいくつでも）

1. 日帰りでの登山	4. キャンプ	7. カヌー・カヤック・ラフティング・釣り
2. 山小屋での宿泊をともなう登山	5. 屋外でのバーベキュー	8. その他（ ）
3. ハイキング・トレッキング	6. サイクリング・マウンテンバイク	9. 特に行っていない

問11 感染拡大後、「避けたい」と思うようになった観光地や野外レクリエーション地はありますか。

（○はいくつでも）

1. 歴史・文化的な街並み観光地	4. 自然風景地	7. 農山村地	10. その他（ ）
2. 都市観光地	5. スキー場	8. 温泉地	11. 特になし
3. 社寺観光地	6. 海水浴場	9. 山岳地	

問12 普段外出する時の新型コロナウイルス感染防止対策として、どのようなことを行っていますか。（○はいくつでも）

1. マスクを着用する
2. アルコール除菌剤（スプレーやシート等）を携帯する
3. 訪問先に設置されているアルコール除菌スプレーを励行・徹底する
4. 手洗い・うがいを励行・徹底する
5. 不特定多数が触れる箇所（ドアノブや手すりなど）をなるべく触らない
6. 換気の悪い密閉空間を避ける
7. 多数が集まる密集空間を避ける

- 8. 他人がそばにいる場所（例：電車やエレベーター）では、会話や携帯電話での通話を慎む
- 9. 周囲の人との間隔をあける（ソーシャルディスタンス）
- 10. その他（ ）
- 11. 特に何もしていない

（以下、スクリーニング調査での富士登山経験者のみ）

問13 これまでの富士登山経験（7合目以上）を教えてください。（○は1つ）

1. 1回 2. 2～3回 3. 4～9回 4. 10～19回 5. 20回以上

問14 これまでの富士登山での山小屋宿泊経験を教えてください。（○は1つ）

1. なし 2. あり

問15 これまでに、富士山山頂でご来光を見たことはありますか。（○は1つ）

1. 見たことがある 2. 見たことはない

問16 もっとも直近の富士登山について教えてください。（①～⑥：○は1つ、⑦○はいくつでも）

①登山時期	1. 2年以内 2. 3～5年以内 3. 6～10年以内 4. 10年以上前
②登山ルート	1. 吉田ルート 2. 富士宮ルート 3. 須走ルート 4. 御殿場ルート
③登山行程	1. ご来光を目的とした山小屋泊登山 2. ご来光を目的とした日帰り登山 3. ご来光を目的としない山小屋泊登山 4. ご来光を目的としない日帰り登山
④同行者	1. 1人 2. 夫婦・家族 3. カップル・友人・同僚（4名以下） 4. 友人・同僚（5名以上） 5. その他（ ）
⑤ガイド付き団体登山 ツアーへの参加	1. 参加した 2. 参加していない
⑥登山日	1. 平日 2. 土日・祝日・お盆
⑦混雑箇所	1. 混雑箇所はなかった 2. 山頂 3. 登山道 4. 山小屋 5. トイレ 6. その他（ ）

(3) スクリーニング調査結果（富士登山意識調査）

■ 富士登山への関心

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
新型コロナの状況にかかわらず、富士登山に興味がある	875	19.0%	3694	12.3%	6.7%
新型コロナの状況にもよるが、富士登山に興味がある	1477	32.1%	8295	27.7%	4.5%
富士登山に興味がない（登りたくない）	2245	48.8%	18011	60.0%	-11.2%
計	4597	100.0%	30000	100.0%	

- 「新型コロナの状況に関わらず、富士登山に興味のある人」が 19.0%、「新型コロナの状況にもよるが、富士登山に興味がある人」が 32.1%となり、いずれも 2 年前の調査と比較して富士登山に興味のある人がやや多かった。

■ 富士登山経験

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
吉田ルート	306	6.7%	1909	6.4%	0.3%
富士宮ルート	209	4.5%	1515	5.1%	-0.5%
須走ルート	96	2.1%	683	2.3%	-0.2%
御殿場ルート	150	3.3%	1156	3.9%	-0.6%
ルートはわからない	607	13.2%	5620	18.7%	-5.5%
登ったことはない	3394	73.8%	20666	68.9%	4.9%
計	4597	100.0%	30000	100.0%	

- 過去の富士登山の経験については、「登ったことがない人」が 73.8%で、2 年前の調査と比較して若干多かった。
- 登山経験のある人のうち、利用した登山道は「吉田ルート」が最も多く、次いで「富士宮ルート」、「御殿場ルート」、「須走ルート」となっており、この順番は 2 年前の調査と変わらない。ただし、登山経験のある人の中では「ルートはわからない」とする回答が今回、前回ともに最も多くなっている。

■ 富士登山で不安なこと・対策を望むこと

区分	2022年		2020年		2022-2020
	回答数	割合	回答数	割合	
登山道での密集・混雑	1046	44.5%	6016	50.2%	-5.7%
ご来光時の山頂付近での密集・混雑	867	36.9%	5310	44.3%	-7.4%
山小屋での密集・混雑	1282	54.5%	7139	59.5%	-5.0%
登山口までの交通機関での密集・混雑	638	27.1%	5012	41.8%	-14.7%
山小屋の衛生環境	1008	42.9%	6081	50.7%	-7.9%
トイレの衛生環境	1423	60.5%	7482	62.4%	-1.9%
健康チェック体制	759	32.3%	5065	42.2%	-10.0%
感染者発生時の対応	715	30.4%	5232	43.6%	-13.2%
その他	53	2.3%	116	1.0%	1.3%
不安に思うことはない	168	7.1%	783	6.5%	0.6%
計	2352	100.0%	11989	100.0%	

- 最も選択率が高かったのは「トイレの衛生環境 (60.5%)」で、次いで「山小屋での密集・混雑 (54.5%)」、「登山道での密集・混雑 (44.5%)」で、これらは2年前の調査でも選択率が高くなっていた。
- 2年前の調査時点から比較的選択率が大きく減少したのは、「登山口までの交通機関での密集・混雑 (14.7ポイント減)」、「感染者発生時の対応 (13.2ポイント減)」、「健康チェック体制 (10.0ポイント減)」と登山時に限らない新型コロナ対応に関する部分では、やや不安が薄れてきていることが示唆される結果となった。

(4) クロス集計調査結果（富士登山意識調査）

- ・ 富士登山意識調査の結果について、性別、年代、性年代の各属性および富士登山経験の有無によるクロス集計を行った結果を次ページ以降に掲載する。なお、表中の色付けは、全体の結果に対して、20ポイント以上高い：橙色、10ポイント以上20ポイント未満高い：黄色、20ポイント以上低い：青色、10ポイント以上20ポイント未満低い：水色、となっている。また、表中の数字が灰色となっている箇所は、対象となるサンプル数が少ないため、読み取りに留意が必要な箇所である。
- ・ 「富士登山への関心」については、感染の拡大状況にかかわらず、概ね50代以下の関心が高く、60代以上は低い傾向にある。また、その傾向は特に男性において顕著である。
- ・ 「今後富士山に登る際に不安なこと・対策を取って欲しいこと」については、特に性別や年代によって重視する項目が異なる結果となった。性別では、より女性の方が全体的に選択率が高く、特に男性よりも高かったのは「山小屋の衛生環境」「トイレの衛生環境」といった衛生環境に関する項目である。また、「山小屋での密集・混雑」「健康チェック体制」「感染者発生時の対応」についてもやや選択率は高くなっていた。
- ・ 一方、年代では70代の選択率が全体的に高く、全体に比べて高さが顕著な「登山道での密集・混雑」など、登山時における密集や混雑を懸念している様子が見て取れる。一方、20代は密集・混雑に関連した項目の選択率が全体と比較して低く、70代と対照的な結果となった。
- ・ 富士登山経験の有無で選択率の傾向が異なったのは、「山小屋の衛生環境」と「健康チェック体制」で、登山経験ありの方が選択率がやや高くなっている。
- ・ 「富士登山に対する意向」については、感染の拡大状況にかかわらず、傾向は富士登山への関心と概ね同様であった。また、登山時に登山形態を変えて登ることを希望する際は、女性において「宿泊を伴わない行程に変更する」「同行者の人数を減らす」が感染の拡大状況によらず、やや高い結果となった。
- ・ 「富士登山における今後の対策」においては、「1日あたりの入山可能人数を制限する」ことに対して20代は「賛成」割合が低く、70代は高くなっている。「富士登山全体を事前予約制にする」ことに対しては、20代の「賛成」割合がやや低く、30代はやや高い。
- ・ 「1グループ（ガイド1人あたり）の最大人数を設定する」ことに対しては、70代の「賛成」割合が高い一方で60代はやや低くなっている。また、男性よりも女性の方が「賛成」割合がやや高い。一方、「駐車可能台数を制限する（少なくする）」ことに対しては、20代の「賛成」割合が低く、70代はやや高い。「駐車場を事前予約制にする」ことについても概ね同様で、20代の「賛成」割合がやや低く、一方で70代はやや高い。「五合目までの通行料金や駐車料金を値上げする」ことについても、70代の「賛成」割合がやや高い。「五合目までのシャトルバスやタクシーの夜間運行を制限する」ことについては、40代、70代の「賛成」割合がやや高く、20代はやや低い。
- ・ 「ご来光を目的とした登山時の宿泊を義務化する」ことについては、70代の「賛成」割合がやや高い。「登山届の提出を義務化する」ことについても、70代の「賛成」割合が高く、一方で20代は低く、30代についてもやや低い。「ガイドの同行を義務化する」ことについては30代の「賛成」割合がやや高い。
- ・ このように各対策については、年代が高い、特に70代は「賛成」の割合が高いことが多く、一方で20代など若い世代は「賛成」割合が相対的に低いことが多くなっていた。